第一巻第二號　大正十二年三月號　毎月一回一日發行

戰闘雜誌

# 進め

Fighting Magazine
Su Su Me.
No. 2. vol. 1.
Mar. 1923

一部十錢

第一巻第二號内容


社會運動に投せんとする青年に與ふ……堺利彦
政治運動へ……北原龍雄
最近の一出來事……糸川二一郎
時評……『進め』同人
研究問答……
或る寃罪の思ひ出……高津正道
ビラ撒き人足……高尾平兵衛
政治運動經濟運動　山川均
二月十一日の日本……
社會主義を抱く男性への希望……山川菊榮・井手さし
プロレタリア政治運動の是非及能否……勞働者・學者・小作人・思想家等六十餘人
知人・友人・同志……母さ二人で……七十の父さ
海外より見た日本……西雅雄
鈴ケ森だより……
人間性と資本主義……吉田只次
十七の頃……すみ子
資本主義の社會なればこそ……三十餘人
女間諜……岡千代坊
百〇一房にて……高野松太郎
軍隊で暴れた話……福田狂二

發行　福田狂二　編輯　北原龍雄

鈴ケ森　進め社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 日本叛逆史

福田狂二著　近刊　四六版約五百頁

私は反逆が好きである。すべての反逆物語は、少年時代から最も嬉しい讀物であつた。それと共に何時も自分自身をその物語の中へ投げ込んで、夢のやうな想像を樂しんだものである。十九才、社會主義者の中に交を得始めて反逆運動の一端に連なるを得たと考へた時の喜びは今に忘るゝ事が出來ない。軍隊に入つて、嚴重なる規律の中へ縛り付けられても、胸をそゝる反逆の激情は消え去らず、鐵板を突き破るやうな思ひで屢々それを爆發させた。前後通計七年八ヶ月、鐵窓の下に沈思省察の日を送つた間からも、反逆に對する愛着は、益々熱と力とを帶びて來た。

靜かに既往の生活を顧みる時、常に何事かを爲さんとしつゝ、何事も爲し得なかつた事を思ふ時、人に對するよりも、私は私自身の反逆心に恥づかしさを覺ゆる。併しながら、人間の志業は時の力を借らなければ行はれない。物足らぬ思ひに日を送る者、決して私一人ではないであらう。

かゝる日を送る間に、私はせめて我等の祖先が反覆して來た反逆戰の跡を偲ぶ事とした。そうして最も深く史書を讀まんが爲めに自ら反逆史の稿を草する事とした。それが卽ち本書である。

私に素より深き史學の素養はないが、骨髓に泌む反逆の心を抱いて史書に對した。眼光自ら史背に徹するもの無からざるを得ない。所謂史家の觸るゝ能はざりし所の、我等の民族の血脈に波打ちし反逆の魂を、紙背より掴み來りて展開した所に一點の特色あるを自信する。又、志情を同じうする友人北原龍雄君が、その唯物史觀的史眼を以つて助勢してくれた事に依つて、稍もすれば激越に逸せんとする筆に、純正なる科學的理路を辿らしめ得た所に、本書が單なる慷慨の文字にあらざるを自信する。（著者）

# 地方の諸君に

地方にて、思想運動や農民運動に從事してゐる諸君の中に、社會主義の基礎智識や運動の原理などを研究する爲め、暫く東京で暮したいと考へらるゝ人が多いであらう。

その諸君に、進め社は力を貸したいと思ふ。

今考へてゐる大體の方法は、約三四ヶ月間簡粗なる住居と食事とを提供する事（旅費はなるべく自辨して貰ひたい）。その間、讀書、討論、坐談、調査、諸運動の見學、諸集會への出席、講演の傍聽などに依つて、研究と修練とに全力を注ぐ事（必要な道案内は私等が務める）。

革命運動には、智識的なる氣骨氣分も必要である。幸に東京にはゴロツキの暴力團體もある事なれば、それ等に對抗して戰鬪精神を養ふ機會も得られやう。

たゞ、進め社現在の能力は、一時に十人位しかお招き出來ぬ。順次入り代つて來て貰ふ他は無い。希望の諸君と數度の手紙交換に依つて相談を決定したい。時には粥をすゝつて饑を凌ぐ位の元氣と、眞摯なる運動の熱情とを自信する諸君は、進め社竹井虎四郎宛親展書で申し込んで下さい。

## 社會主義研究

月刊・一日・一部三十錢

山川均　山川菊榮　西雅雄

## 前衛

月刊・一日・一部三十五錢

上田茂樹　山崎一芳　高橋貞樹

## 農民運動

月刊・十五日・一部十錢

稻村隆一　西雅雄　浦田武雄　北原龍雄　岸野重春　平野學　森崎源吉

## 勞働新聞

半月刊・五日二十日・一部五錢

吉川守邦　橋浦時雄　川崎憲次郎　高野武二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 光と熱の火焔

光は理智の輝きを語り、熱は戰鬪の情意を表はす。革命の精神は焔でなければならぬ。

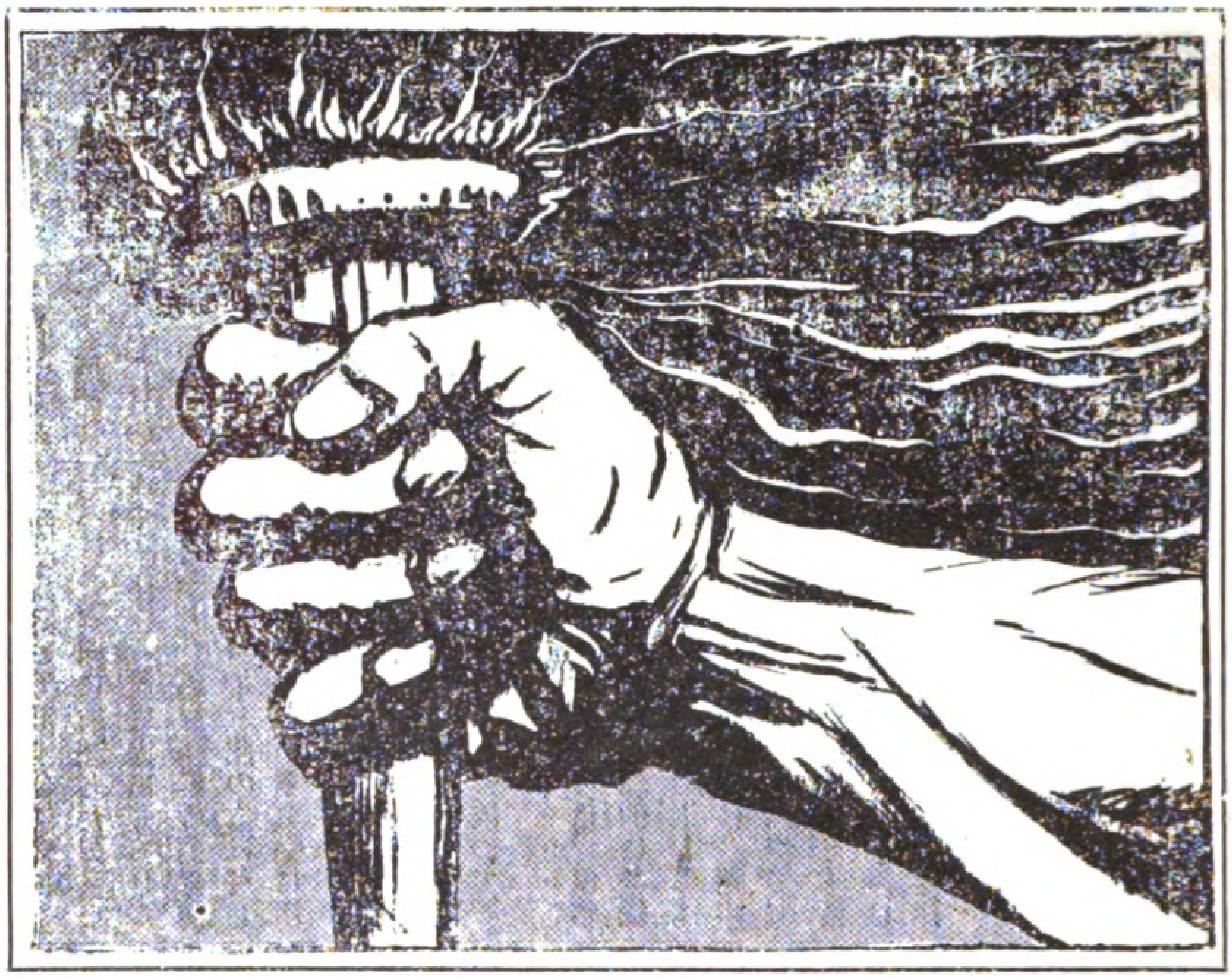
理智は透徹せよ。一片の陰影をも殘さゞれ。一切の疑問を照破し、一切の未知を征服せよ。日本には日本の社會的特質があり、それに準據する日本の特種的革命行程がなければならぬと、私等は信ずるものであるが、その特種性を究明するが如きは、明かに理智の務めである。

されど理智の務めが果された時、そこには戰鬪の情意が躍動して來なければならぬ。それを忘れては、革命行程の途上に、理智は一つの遊戲と化して了ふだらう。

理智と離れた情意は盲目である。情意を失ふた理智は無力である。

背理と、罪惡と、無智と、錯誤との一切を燒き盡す事が革命の本質であるが、燒くは熱の使命であつて、燒くべきものを見出すは光の職分である。

光と熱。理智の輝きと戰鬪の情意、革命の精神は焔でなければならぬ。



大正十二年三月　戰鬪・進め・雜誌　第一卷第二號

# 政治運動へ！政治運動へ！

一　所有と政治とは常に關聯する。隨つて所有否定の運動も亦、政治に關聯しなければならぬ。

生産機關を、一方が所有し他方が所有しないのは、一方が搾取し他方が搾取せられる事を意味する。このやうな、人間の本性に反する事象が存續する事の出來るのは、所有と結合せる政治の威力が、それを支持するからである。故に政治を離れて所有關係は存續し得ない。太古より今日に至る諸々の制度に於て皆然り。

近世資本主義と憲法政治との關係に依つて、所有と政治との最も理想的なる結合が示された。資本主義の成熟せる國に於て、所有者の他に治者は無く、治者の他に所有者はない。ブルヂョアに取つて、資本の蓄積は「經濟運動」であつて、議會政治の確立は「政治運動」であつた。

二　唯物史觀の提説に隨へば、生産力の發達に依つて、社會革命は自動的に必然的に行はれる。故に、此の社會觀に立脚する限り、社會的變化の一切を、自働的推轉に任して置けばいゝ筈である。

それだのに、歷史上すべての社會革命に激烈なる運動が伴ひ、現在も亦それが必要とせらるゝのは何が故であらうか。それは、現存の所有制度と結べる政治的權力が、起るべき推轉を抑制して、必然の行程に人爲の阻止を加ふるからである。

故に、すべての革命的なる運動は、本質上政治權力を對象としたもの、即ち政治的なるものでなければならぬ。政治運動の否定は、革命的なる運動一切の否定を意味す。

政治運動の本流を、議會に置く可きか街頭に置くべきかと言ふが如きは、運動形態上の、換言すれば運動技巧上の問題であつて、原理上の問題ではない。

一體、政治とは、社會的物理力の、組織化統一化に依つて行はるゝ所の、一定地域の支配である。個人の物理力は、社會的物理力の前に一摑りもない。それだから、一片の法文も人の行爲を拘束し得るのである。

社會的物理力の本質及びその組織化され統一化される過程が何であるにせよ、絕對的なるその威力は現實の事象である。

政治運動を否定する思想は、一體、此の物理力を如何に見ての事か。ブルヂョアは、自己の社會を組織するのに、『政治運動』を否定する程アナキスチックではなかつた。又、物理力を以て自己を衛る事を怠るほど生優しくはない。

三　併し、當面の問題は、實はもう一歩進んで居る。政治運動の是非などは、もう議論の種にするべく、餘りに明白である事は、本號に寄せられた多くの運動家、思想家等の解答に依つても知る事が出來る。問題は、それを如何にして現實化せんか、如何なる形態の政治運動を選ぶべきかにある。

此の考察は餘程複雜して來る。現實の仕事を如何にして進めんかとの問題は、原書と辭書とに依つては解決せられない。社會は複雜である。經緯の線に沿ふて鐵道を敷く事の許されないが如く、純理の指し示す直線が、必ずしも現實の運動の行路ではないであらう。

雜誌に依つて試み得る仕事の一つとして、私等は今後、此の題目の究明に、最も多くの力を注がなければならぬと思ふ。（北原龍雄）



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 時評

同人

### 無產者同盟の存續

過激法案撲滅の爲めに生れた無產者同盟は、今、永續の團體に成らうとして居る。此の事は素より明白過ぎる程に必要であつて、その完成は日本の無產階級運動に一轉機を與ふるだけの意義を含むと思ふ。

社會主義同盟が滅びて以來、思想運動の集中的結合が行はれなかつた事は、日本のボルシエヴヰキストの大きな怠慢であつたとも言ふを得やう。而も、今、機運は熟したやうである。

正直な話、社會主義同盟には、多分の茶氣が含まれて居た。それだけ華やかに上つ滑りがして居た。今度の同盟はあれに比べて、遙かに深刻に行はれるらしい。之は恐らく運動の正當なる進化であらう。

殊に、見逃してならぬは、政治運動の勢の勃興が、今度の結合に特別の意義を附與する事である。政治運動は對權力の運動である。權力が一つである限り運動の全面が、一定點に向つて集中するは必然である。運動主體、亦、一個所に凝結せざるを得ない。そこで、政治運動と集中的團體とは、相互元氣を付け合つて進むとであらう。

序に一言すれば、此の團體の名稱は、同盟でなくて聯盟でありたい。聯盟の方が、複合的團體の感じを含み、團體の單位が又小團體である事に相應はしいやうだ。

### 小作爭議法案

過激法案と勞働組合法案との二つは、空間に消滅したが、小作爭議法案は遂に提出せられる事となつた。過激法案の對思想的なるに比べて、此の方は著しく對行爲的である。その點に法律としての完全性があるであらうが、それだけ効果は覿面に表はれ、眼前に起りかけた現實の運動が、一片の法文に依つて粉碎される事となる。

社會政策と言ふものは、溫情のもとにかくれて、心理的に勞働階級の鬪爭性を痲痺せしむるものであるが、此の法律は、調停の名に依つて、强權を以つて無產階級の憤起を蹂躙せうとするものである。女に化けた惡魔は最も恐ろしい。惡逆暴戾の法律が、表面に穩かな調停の假面を被つて現はれる所に、特殊の惡性が含まれてゐる。

人間の智惠はあらゆる場合に進化する。國家のブルヂョア擁護機能も亦、相當、進化性に富んで居る事が、巧妙と惡辣さを極めた此の法案に依つて明かに示された。

### 朝鮮勞働者の暗示

去年十二月、朝鮮人が日本に渡るのに、役人の旅行證明を要しなくなつたので、渡來勞働者が激增し、平均一日八九百名に達してゐるとの事である。

此の多數の新來勞働者が、內地の勞働者に與ふるものは、競爭と賃銀の低下と失業とである。溺れる者が、木片を奪ひ合ふやうな悲劇、それが今、日鮮勞働者の間に激成せられやうとしてゐる。

それを後方から眺めて、ほくそ笑む者は資本家である。殊に北九州の地主間には、最近農業の自家經營熱が高まりつゝある。そこへ流れ込む、此の安い勞働者の大群は、彼等をどれほど喜ばしてゐる事か。それと同時に根本からグラ付きだしたものは、小作人の立場である。

無產階級內部の、部分的分裂、即ち、或る部分と他の部分との立場上の背馳、矛盾、衝突、それは資本主義生產の社會にて、個々の勞働者が、或は個々の勞働集團が、自分等の經濟的利害に立脚する限り、免るゝ事の出來ぬ運命である。私等は、その傾向の最も大きな現はれなる、都市勞働者と小作人との間に於ける衝突性を前號に於て考察したが、今亦、同一の事情を、日鮮人の間に見せ付けられた。

此の事情は、たゞ悲慘な話だけではない。無產階級の自己解放運動に、大きな禍と不安とが、こゝから投げ付けられるのである。そうして、此の禍から解放運動を救ひ出すものは、結局、全無產階級の政治的結合、たゞそれだけである。

無產階級の思索の深化を促す爲めの、一つの强き動機たる點に於て、日鮮勞働者の衝突も、或は祝福すべき、過渡期的現實暴露の一つであらう。

### 『普選』運動の群集

何とか言ひながらも、普通選擧運動は次第にモノになつて來た。二月二十三日の示威運動には、五萬の參加者を得たと言はれてゐる。

政友會の代議士の中にも、普選實現後の選擧が怖くて、內心ビク付き出した者が多いであらう。質屋の番頭や宿屋の客引に共通した敏感を有する幹部は、或は明年あたり普選案を自分で出すかも知れない。何れにしても、普選は、遠からず實現するであらう。

そうなれば、上野や芝に集つた普選群集は、瘤を取つて貰つたやうな安心と滿足とを覺えて、そのまゝ分散し沈默するであらうか。

それは、普選を透して働く大衆の政治的威力が、大衆の諸欲望に平行し得るかどうかに依つて定まる。幸に——普選デモクラットの言へるが如く——平行するとすれば問題は無いであらうが、若しそうでなく、大衆の欲望の飛躍し急進する遙かなる後方から、ノソリ〱と普選の議會が歩むやうな狀態であつたらどうなるか。

大衆は、普選前に於て、新しき選擧制度を要求したるが如く、今度は新しき政治形態を要求するであらう。そこには新しき結合も生れ出でやう、新しき示威運動も繰り返されやう。何れにしても、普選を求めた大衆が、普選の議會を冷睨し始むる時、その眼には殺氣を帶びて來なければならぬ。

普選に對しては冷淡だが、勞働階級の政治運動は、惡法反對だのメーデーだのゝ、現實問題に依つて、漸次熱度を高めつゝある。やがてそこから、政治運動の新しき形態が生れて來なければならぬ。

此の形態が、明確に勞働階級の意識に上つた時、政治運動は俄かに勢を得るであらう。そうして、普選に寄り集つた大衆が今後何を爲すべきかを敎えらるゝものも、此の運動形態であらふ。

# 社會運動に投ぜんとする青年に與ふ

堺利彦

【一】

思ふに君は、智識階級か、小資産階級か、月給取階級かに屬する青年だらう。

若し君が勞働者であるならば、勞働組合にはいつて勞働運動に投ずる筈だ。又若し小作人であるならば、小作組合を作つて農民運動を起す筈だ。勞働運動とも云はず、農民運動とも云はないで、社會運動に投じたいといふ所を見ると、どうしても中流階級の青年と見るより外はない。

所で、君の云ふ社會運動とは、果してどんな事を意味してゐるか。君自身も恐らく漠然とした考へに過ぎないだらう。然し大體の見當としては、先づ斯ういふ事に歸着するだらう。現在の社會組織は如何にも無理だ。如何にも馬鹿々々しい。何とかして之を根本から作り直して、人間が皆んなモツト安樂な生活の出來るような世の中にしたい。自分はさういふ世の中を作りあげる爲に努力したい。つまり君は、現社會の×××××の必要を認め、現在の×××××を亡ぼして、貧富の階級のない共同生活の新社會の實現を望み、自分も其の變革の大事業に參加したいと云ふのだらう。

それならば立派な事だ。青年のまじめな野心として、如何にもさうありたい事だ。然し僕は容易に君を信じない。君がどれほど熱心な面持を示しても、どれほど痛烈な言葉を吐いても、どれほど憤慨しても、どれほど齒ぎしりをしても、僕は容易に君を信じない。斯う云ふと、君は怒るかも知れない。然し幾ら怒つても仕方がない。僕には容易に君を信じ得ない理由がある。

【二】

第一、君の地位境遇がわるい。君が若し勞働者か小作人かであるならば、僕は一層早く君を信ずるだらう。總ての勞働者小作人が君よりエライと云ふのでは勿論ない。只だ彼等には必然的に負はされた歷史的使命がある。彼等は社會進化の過程に於ける、必然的の革命要素である。資本制度を崩壞さすべき主力は、必然的に彼等の手の中に在る。彼等は直接に資本階級から搾取され、最も多く支配階級から壓迫されてゐる境遇上、本能的の反抗精神を持つてゐる。よし現在に於いて、まだ其の精神が十分に發揮されて居ないとしても、近い將來に於いて必ずそこまで進むべき性質を備へてゐる。だから彼等は信頼するに足るのだ。

然るに君はどうだ。中ブラリンの境遇ではないか。或は多少の資產を持ち、或は幾許かの智識技能を持ち、或は親戚友人知己の間に何程かの便宜を持ち、どうしても純然たる勞働階級の立場に立たれないような地位に居るではないか。從つて君には幾分かヌケガケの機會がある。遣方次第に依つては、可なりな社會的地位を作り、可なりな生活を送り得る可能性がある。又そこまでは行き得ないとしても、ほゞ現狀のまゝで小いさく收まり得る可能性がある。社會の最下層よりは稍や上層に座席を占め續け得る可能性がある。そこが即ち僕が容易に君を信じ得ない所以だ。

君は恐らく云ふだらう。自分は決してそんな薄志弱行の者ではない。苟くも社會改革の大事業に一身を投ずる以上、斷じて自己の生活なんぞを顧慮するものではないと。然し滅多に大きな事は云はれない。僕は二十何年來、夥たしい實例を見て來た。中流階級から出た社會運動者が、脆く變節したり、意久地なく退却したり、いつとはなしにグズ/\になつたりした、夥たしい實例を見てゐる。如何に君の熱烈な斷言があつても、其の夥だしい實例を抹殺するには足りない。

【三】

君は今ま理想に燃えてゐるだらう。僕はそれを信ずる。けれども、それを信ずるが爲に、君の將來を信ずるわけには行かない。

君には父母兄弟があるだらう。親戚があるだらう。或は恩人があるだらう。それが寄つて君を諫止する時、君は果して能くそれに對抗する事が出來るか。君は恐らく出來ると思つてゐるだらう。或は現に對抗しつゝあるだらう。場合に依つては、一切の家族關係なぞを振り棄てゝも構はないと決心してゐるだらう。然し一時の決心といふものは、そんなに頼もしいものではない。

君がいよ/\本式に社會運動にはいつて來ると、君の困難は著るしく增大して來る。君の父母は泣いて君に訴へる。殊に君の母は狂氣のようになつて君を掻きくどく。或は遂に其の爲に病氣になる。君の兄は君の爲に職業を奪はれる、少なくとも其の危險に襲はれる。君の妹は君の爲に縁談が不調になる、或は既に結婚してゐるのならば、悲慘な離婚になる。君は果して能くそれらの事に堪へ得るか。

君の決心は固より隨分堅いだらう。從つて右等の事には堪へ得るかも知れない。然し君も食はずには生きて居られない。何かの職業に就かなければならない。その職業が先から先へと、政府の迫害の爲に奪はれて行く時、君はどうして生活するか。

君は勞働でも何でもやると云ふだらう。宜しい、やつて見たまへ。君の體力でいつまで其の勞働が續けられるか。君が其の勞働でケガをしたり、病氣になつたりして、懷中には一錢もなくて公園のベンチの上に轉がつた時、君はどんな心持になるだらう。君の今の心持では、若しそんな境遇に落ちいつたら、ますます反抗心を燃して大いにやるのだと考へるだらう。實際さういふ人物もある。然しそれは百人中の一人、或は千人中の一人だ。君自身が其の百千人中の一人だとは限らない。

【四】

又、それほどの窮境には落ちないにしても、三年も五年も不安な苦しい生活ばかり續けて、そして運動の方面にはハカ/\しい効果も現はれないで、并て想像したような、華々しい、

痛快な事件も起らないとしたらどうだ。君の心に飽きが來ないか、弛みが出ないか。

それに君は、食ふだけでは生きてゐられない。君は酒も煙草も飲まずには居られるだらう。然し女の欲しくなる時が必ず來る。君はその問題をどうする積りだ。苟くも革命家たる者は獨身生活の決心がなければならぬ、と君は云ふかも知れない。然しそれほどアテにならない決心はない。

そこで君が、右に云ふような幾つかの揚合に立つた時、然らもがいてもそれから脱出する道がないとすれば、更に一層の反抗心を燃して大いにやるといふ事になるか、或はそのまゝグズグズになるかの二つだが、恐らく君には脱出の道がある。君が從來の運動を棄てゝ、『改悛』の意を表して『善良』な人物となれば、君の父兄なり親戚なり恩人なりは必ず君を拾ひあげるだらう。それでなくても、君の智識技能をブルジョアの爲に捧げれば、多分相當な地位が得られるだらう。そうすれば、君は先づ大して生活にも困らず、女房の一人ぐらゐ持つ事が出來るだらう。

そういふ希望があり可能性がある時、社會運動者としての君が僕の信用を得ないのは當然ではないか。君は多少の智識學問を持つてゐる。其の智識學問が遂に君をして社會運動を否定させる道具になる。少なくとも『穩健』な社會運動のみを肯定させる道具になる。その時、君は必ずそれを『眞理』と信じて主張するだらう。けれども、君に其の『眞理』を信ぜしめる眞の動力は、前述の如き君の地位境遇に在る。

それに君が今日まで受けて來た周圍の感化は、總て小ブルジョア的感化である。國民教育の直接の感化からは脱却しても居るだらう。資本主義的・帝國主義的思想には反抗しても居るだらう。けれども、少年時代に深く浸みこんだ小ブルジョア的感化は、容易に一掃し得るものでない。たとひ一時は一掃し得たと信じ、他からもそれと見えてゐても、何かの機會には兎かく復活しやすいものである。そこにも大いなる危險が潜んでゐる。

【五】

そこで我々の間に斯ういふ一説がある。何んでも早く『洗禮』を受けさせるに限る。一度洗禮を受けさせさへすれば、信仰の動く恐れがない。背水の陣を敷いてしまへば、退却の道が無くなるから安心だと云ふのである。『洗禮』とは入獄の事を意味する。

然し之も大丈夫とは云はれない。入獄の爲に直ぐへコたれた實例は幾らもある。又、幾度も入獄した剛の者が、而も知名の首領が、結局やはり駄目になつた實例もある。

【六】

然らば中流階級から出た社會運動者は總て駄目かと云ふに、必ずしもそうではない。

中流階級にも矢張り歷史的の使命があり、社會的の任務がある。明治維新の革命がブルジョア革命であつても、率先して直接に働らいた者は主として小士階級であつた。それと同じように、今度のプロレタリア革命にも、中流階級(小ブルジョア階級)から有力な働き手を送りだすべき自然の約束になつてゐる。

だから君も失望する事はない。中流階級出身の社會運動者として、當然の歷史的使命を果す積りになつて差支はない。

只、個人的に見れば、それらの運動者の長年月に亘る永續は容易に信じられないと云ふのである。然し中流階級からの社會運動者を一群として大體から見る時には、(個々人は絶えず出沒し交代してゐるけれども)その集團的運動はいつまでも連續して居り、又增大して居る。そこに中流出身者の社會運動の力が在る。

そして其の連續し增大する中流社會運動の間に、少數の者だけが永續的に本物として殘る。思想上にも十分徹底し、實際運動の訓練をも經て、本當に勞働階級の立場に立つ代表者として認識される事になる。只、君が果して其の少數者の一人になり得るか否かゞ問題だ。

【七】

最後に、君が能く今日の決心を持續して、其の少數者の一人になり得るとして、僕にはなほ注文がある。

君は英雄主義者であつてはならない。革命の大立物として、プロレタリヤ軍の大將として、華々しい功名を立てるといふような野心を持つようでは、大將にも大立物にもなれつこはない。大將だの、大立物だのと云はないまでも、一方の旗頭として民衆の信賴を博しようと云ふには、モット、モット、大きな野心を持つことが肝要だ。

モット大きな野心とは何か。犧牲の覺悟だ。埋草となり棄石となる覺悟だ。一生涯、椽の下の力持をして、それで死んでしまつても少しも悔いないといふ大きな良心だ。それで滿足が出來ないと考へるほどなら、いつそ初めから大金持になる志願でもするがいゝ。

此の雜誌の讀者諸君の大多數に取つて、恐らく適切なる文章であると思ふ。充分熟讀していただきたい。又、同じ題目にて、山川さんに次號へ書いて貰う。二つを合せて、パンフレツトにせうとも思つてゐます。(編輯係)

## 生産と消費

汗水流して死ぬる思ひで是だけのものを生産し、資本家の倉庫へ運び込む。それが勞働者の一日の仕事である。

魂も拔けたやうに疲れて、餓えた妻子の待つ家に歸る時、かゝえた賃銀はたつたこれつぱかりだ。全く『資本主義の社會なればこそ』。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 二月十一日の日本

大正十二年の二月十一日、此の日日本のプロレタリア階級は、政治的示威運動の目ざましい歩調を進めた。惡性の法律案を撲滅せんとする喊聲が、全國の主要都市であげられた。

## 東京

東京では三つ中の大會が開かれた三つ中と言ふのは、三つはプロレタリアの大會で、一つは、ブルジョア政治家の主動に依つて開かれた、普通選擧の大會だからである。

### 會旗と勞働歌

――芝浦の勞働大會――

正午前後から、芝浦グラウンドには、組合旗團旗が三十餘旒汐風になびいて、眼鄰く勞働者が續々と詰めかけた。五百、八百。千と、人數は刻々増加して行く。あちこちから、高らかに勞働歌が歌はれだす、それが二つ三つと一所になつて遂に全體が一つの合唱に包まれて了ふ。それは實に、所々に起つた個々の運動が、やがて全國的なる一大結合となる有様を思はしめる。

午後零時半頭數は二千を超えた。白木の演壇の前に立つた造機船工組合の齋藤忠利君が開會の辭を述べた。過激法案、小作爭議調停法案、勞働組合法案所謂本年の三大惡法案に對する提出反對の全國勞働者大會の趣旨が、憤激の語調を以つて宣明せられ、加藤勘十君が、それに續いた。一時半示威行列に移り、芝、京橋、日本橋を過ぎて深川公園に辿り着き、歌の合唱と萬歳とで散會した。

此の日、警視廳は、約一千人の巡査を以つて此の運動に攻めかけた。會場の入口には、先廻りした一隊が待ち受けて、來る人毎の身體檢査をやり、爆裂彈、機關銃、地雷火などを持つて居る者の有無を調べると共に、人物試驗をやつて、彼等の所謂甲種要視察人即ち社會主義の注意人物を悉く檢束で退治して了ふ。その犠牲者十七八人、『進め』の伊藤も末席を汚した。

次に演說會で、壇に登つた朝鮮の同志を悉く檢束し著しく人種差別を發揮した。行列の途中、高聲を發する者、歌をうたふ者、旗を揭げやうとする者、片つ端からゴボウ拔きにした。是等檢束の犠牲者約四十名に達した頃は、行列は自然靜肅なお葬式のやうなものとなるの他はなかつた。

メーデー以外、勞働者自身の示威行列は始めてゞある。而もそれが國家の權力行使に對抗したものである點に於て、此の日の大會は深い意義を持つてゐる。

### 土地國有の決議

――神田の農民代表大會――

芝浦に會旗の樹ち初めた頃、神田の松本亭には全國各地の農民が集合し、日本農民總同盟主催の、農民代表者大會が開かれた。北海道の近藤儀太郎氏の開會の辭に始まり　次の六つの項目が決議せられた。

一、土地國有を期す。
　但し管理權を耕作者に與へよ。
一、一年兵役の實施と下士卒の優遇。
一、醫術の國營を期す。
一、教育機關の平等を期す。
一、交通機關の平等を期す。
一、勞農露西亞の即時承認。

それから、各地代表者の五分間演說をやつて散會し、直ちに一同で芝浦の大會に急ぎ參加した。

此の大會は、人數に於ては盛んなものでは無かつたが、從來此の種の企ては、すべて農民の名の下に地主達が貪婪な物慾の牙を磨く爲めのものであつた。それが、此の會に依つて始めて、小作人の中央集合の端を發し、殊に直接國家に對して、意思の表示を試みた。

### 江東の一角に

――機械勞働聯合會大會――

芝浦に呼應して本所橫網にも、三千人近い勞働者が、戰鬪的集合を示した。失業防止、惡法案反對の機械勞働聯合會大會である。決議の朗讀から各組合代表者の演說を終り、龜戸方面に示威行列を試みて散會した事は記憶に價する。

> **四月號豫告**
>
> **メーデー號**
>
> □四月に發行する第三號をメーデー號とし、メーデーに關する文章と詩とを滿載します。
>
> □メーデーに關する種々の寄稿を讀者諸君にもお願したい。是非ごうぞ。〆切は三月末。

### 熱辯と鮮血

――上野の普選大會――

勞働階級は、もう靜かなる思索に入らうとして居る時、ブルジョア政治家は未だドラ聲と長廣舌との世界に居る。所謂普選大會が、上野公園の飲食店を中心として開かれた。『熱辯』が十數人に寄つて放たれ、一萬餘の會衆は手を叩いて喜んだ。

そこまでの熱辯の幕には我々は何事も感じない。所がそこへ鮮血の幕が開かれた。それは壯士と稱する木劍勞働者が、演壇に飛び上つて熱辯共を叩き廻し浴び捲つた事である。その時、此の會合の、たゞ一つの眞劍味を帶びた一點が示された。それに此の熱辯共、皆逃げ去つた後へ、白髮の箕浦勝人、楠部寬剛氏だけが踏み止つた。その事が既に幾分悲壯である。その上、會衆の中に居た楠部氏の息子、十九の少年嘉男君が、飛び現はれて傷を負ひつゝ父を救ふた。私等は普選祭りには少々閉口しながらも、此の老鬪客と少年との幸福を心から祈る。

今一つの感想は、此の日上野に集つた普選の客は普選の實現に依つて果して幾割まで滿足し得やうかと言ふ事である。そうして大多數の殘部はその時芝浦に行かなければならないであらう。普選よ早く來い。そうして早く大衆を失望さして吳れ。

## 大阪

### 會旗の奪還

――中之島の惡法案反對大會――

大阪市では、三十餘の組合團體が、前日より演說會に、檄文に、全市を緊張せしめつゝ此の日を迎へた。

午後一時には、既に幾つかの會旗が中の島公園に現はれた。後から後から加つて、五千名の大集團は幾十本の旗を中心に渦卷いた。煙草勞働組合などの女工の群は、青服の波の中に異彩を放つ。

午後二時、女工を先頭に總同盟を後端に行列に移り、『過激法案を闇から闇へ』『勞働組合法案を排擊せよ』『小作調停法案を葬れ』等の、鬪ひの文字を書き表はした長旗を、小春風に吹かせて、劍先から天神橋を渡り、松屋町筋を南下して天王寺公園に進んだ。

こゝでも警察は何時もながらの警戒に浮身をやつし、先づ天神橋の袂に四五十名の巡査垣を作つて社會主義者と目指さるゝ者を悉く檢束し、途中何か事あれかしと狙ひつゝ、天王寺公園附近まで來た時全隊の足並が早くなると、それを口實に巡査の大群行列を阻止せうとして小競合を演じ、曾沼警察部長なる者自ら勞働者の列内に暴れ入つて先頭の鮮人が揭げた機械勞働組合の會旗を奪ひ取り、旗手を檢束した。

勞働者は憤激して交番を取卷き、遂に會旗を奪ひ還して萬歲を唱え、幸先きよき遭遇戰の勝利を祝福した。

此の日、他の一方で純向上會が、『普選要望』と染拔いた幟に勢揃ひをして、北區一體を練つて歩き、五萬枚の葉書を通行人に配つて普選即行の可否を問ふた

## 八幡

### 玄海の怒濤を呼びつゝ

――八幡市の官勞大會――

午前十時、八幡驛前に集合した、官業勞働者各地代表者約三千、赤の胸章と青の三角旗とに彩られながら、『惡法案を撤回せよ』その他標語旗に氣勢を揭げつゝ、勞働歌に步調を強めて、練り步いた。官憲の狼狽と過敏さはこゝも同じく、附近の應援巡査は戰爭の如く押しかけた上に博徒の集團が赤襷がけにて所々に卑しい眼を見張つて居た。

行列はその中を悠々と進み、十一時本部前に達して萬歲を叫んで散會した。途中、行列に加はり、××歌の高唱や檄文の散布で、運動に活氣を付けた社會主義者の一團中より、前後八名檢束された。

午後二時からは、枝光町ニコ〳〵座にて演說會が開かれた。

こゝに悲しき出來事は、淺原建三君の遭難である。淺原君は九州の勞友會長で、學識人物、共に優れ、九州の運動界に重きをなして居る人だが、此の日午後一時、中央區なる自宅前に通りかゝつた所を、十餘人の無頼漢に襲はれ、地上に昏倒するまでの傷を負ふた。幸に經過は良いと聞く。

## 名古屋

午後一時から鶴舞公園で、名古屋市及附近の勞働者大會が開かれ、三つの惡法案の反對を決議し各代表者の演說にて、東西に呼應しつゝ、氣勢を揭げた。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 政治運動の是非及び能否

## 題目

日本に於けるプロレタリアの運動は、今後政治運動の部分が漸次多くなるであらうとの考へが最近一部の人々に抱かれて來たやうですが、此點に關するあなたの御見解の要旨をお聞かせ下さいませんか。尤もこゝに言ふ政治運動とは、國家權力を直接客體とする一切の運動の意味であります。（質問）

## 政治運動を肯定せるもの

### □ 荒井邦之助氏

プロレタリアの運動の政治的になつてゐるのは何よりも、望ましい事でなければならない。運動自身が政治的になるばかりでなく、運動する者は政治家になる必要がある。現在日本に於けるプロレタリア運動全體を見た時に、何より先きに氣付く事は、政治家のゐない事だ。アナーキストや一部の「符式」の社會主義者などの考へてゐる樣な、一部分の人々だけの自己滿足的な運動では、到底プロレタリアの目的を遂行する事の不可能が明瞭となつて「一大衆運動」が絶叫されてゐる今日、私は、聲を大にしてプロレタリアは宜しく政治家たるべしと叫ぶ者である。私の云ふ「政治」はプロレタリア自身の政治である。誤解するな。

### □ 荒畑寒村氏

政治運動即ち議會政策と云ふ從來の解釋は間違ひです。無產階級政治運動の意義は、プロレタリアがブルジョアの手から、政治上の權力を奪取して、プロレタリアの獨裁政治、即ち無產階級國家を作るの謂です。政治と經濟とは、別個獨立のものではなく、表裏一紙です、ブルジョアの經濟上の權力の總和が、即ち彼等の政治的權力なのですから無產階級が經濟上に於て、ブルジョアと戰ふ階級鬪爭は、その論理的歸結として、必然に政治運動に進展せざるを得ません。この事實を否認せる純粹單純なる經濟運動は勢い改良主義に墮落せざるを得ません。然し亦、この意味に於ける政治運動は、公然たる政黨組織と議會運動とに俟たなければ、出來ぬやうに思ふ考へとは同意しかねます。詳しくは「前衞」三月號の小生の「政治運動に關する一考案」を見て下さい。

### □ 鈴木楯夫氏

私も、今後、政治運動が盛んになつて來ると思ひます。それは、此の方面からする運動が運動者に取つて比較的樂であるのと、今一つの理由は、多數の人が近づき易いからであると思ひます。無產階級の最後の目的が直接行動に據るが早いか、政治運動に據るが早いか、それとも日本の無產階級がグズ〱して居る内に外國の無產階級が目的を達して、其勢力を以て、日本の變革を餘儀なくせしめるか、〻恰度明治維新が外國の力に屈服して開國した樣に〻私には、一寸見當が付き兼ねます。

### □ 岡陽之助氏

解放運動の目的が經濟組織の改造にあることは極つてゐる。要はその手段だ。そして一番なのは現在の組織を必死に支持し擁護してゐる權力だ。勞働者の地位をちよつと向上させる、あの卑なる賃金値上の要求でも、少し大きくなると、すぐ權力といふ奴が飛び出して來て、その運動の防害破壞にかゝる。過激法案の如きは、その最も徹底して惡辣な一例だ。從つて目的を達するためには、敵の權力に手をかけねば譯にゆかぬ。

此の意味で一切の解放運動は先づ××の奪取運動に始まるより外に道がないと考へる。そして其の戰術が外からの切り崩しであれ、內からの掻き亂しであれ私は、それが無產階級の政治運動だと考へる。

無產階級と一概に云ふてもその構成分子の地位境遇が一樣でない。從つて意識が不統一だ。それを統一し結成し指導して敵に當らねばならぬ。この大役を果すものが無產階級の政黨だと私は考へる。既に大いに政治運動が開始されねばならぬ以上、私はその主體たり頭腦たる政黨樹立の急務を痛感せざるを得ない。

### □ 仲曾根源和氏

プロレタリア階級はブルジョア階級の政治に『參與』する必要は無論ない。然しブルジョア階級の政治に龜裂を生ぜしめたり、威嚇したり、對抗したりすることは必要なことで、此の意味に於けるプロレタリア階級の政治運動がなければならぬと思ひます。日本の無產階級は近時この點に目覺めて來つゝあるやうに見えます。これを否定したり、冷笑したりする『革命家』は革命を口にすることを止めて基督の再臨を待つた方が早道です。

### □ 堀經夫氏

日本人は、一時可なり熱情的になりますが、それも兎角冷め易く、徹底的なる改革を一氣呵成的に遣り遂げることは恐らく出來ますまい。ですから、日本に於けるプロレタリアの運動は、今後はやはり其の政治運動の部分を漸次加へて極めて穩温的に進んで行くのではないかと愚考いたします。

### □ 永井柳太郎氏

政權をブルジョア階級のみに委ねて置いて、プロレタリアの生活改造の意義を徹底し得る筈はありません。私はプロレタリアの改造運動は次第に政治運動を意味するやうになると信じ、又現にさうなりつゝあるを認めます。

### □ 村松正俊氏

プロレタリアの運動が政治運動に這入つて來たといふことは、最近の日本に於けるボルシェヴィキの活躍から考へても極めて當然のことゝ思はれます。政治革命と社會革命とを特に分けて考へる人もあるかも知れませんが、現在の日本では何と云つても政治革命の方が先きだと思はれます。さうして見れば日本に於けるプロレタリア運動が政治運動に這入つて行くといふことは、可能なことに違ひありません。但し立場が異へば結論も亦違ひます。

### □ 高野武二氏

プロレタリアの運動は、その運動が力強くなり、激烈となるに從つて、次第に政治上の運動に進轉して行くべきものであると思ひます。しかし、云ふまでもないことでせうが、それはブルジョア政治を肯定する運動ではなくて、否定する運動であります。それはブルジョア政治に參加する運動ではなくて、抗爭する運動であります。この限界を踏み越えれば、プロレタリア革命行程の墮落であり、去勢でありますから、これを踏み外さない範圍の政治運動たることが、プロレタリア政治運動の基礎的條件であると信じます。

### □ 宮崎龍介氏

資本組織が爛熟すれば社會革命が起ると唯物的歷史觀は教へてくれる。然し社會の變動は此の經濟法則の歩み通りに進むとばかりは限らない。それは資本組織の高調に達した英國や米國に社會革命が起らないで、却つて露西亞に起つた事實を見てもわかる。それは他の諸種の條件が加はるからである。プロレタリアの運動が資本組織の發達の低調たると高調たるとを問はずこれを打破しようとするのならば、無論政治運動の方法をも併せ用ひればなるまい。だが資本組織の爛熟を待つて社會革命を實現しようと云ふのならば社會主義の理論位を宣傳してゐればそれで良いであらう。

### □ 河合正治氏

百姓達は、この頃、しきりに地主の脇會や農會や村會を奪ひ取らうと苦心してゐる、これをして一つの政治運動と言へば、言へないこともないでせう。俺は、「プロレタリアの政治運動」といふ意味は依然として解らないが、ブルジョアの議會へ、プロレタリアの代議員を送つて彼等の權力政治の官能を無力たらしめる運動方法よりも、彼等の權力政治を院外のプロレタリアの大衆の力をして直接に無力たらしめる運動方法が、ブルジョアの社會組織を破壞する戰術として徹底したものと見ていゝと思ふ。

### □ 木村愛雄氏

現今の資本主義を擁護してゐるのは政治でありますから、プロレタリアは必然政治運動を起すと思ひます。

今までの經濟戰よりは政治運動の方が革命的に進むと信じます。



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

□ 朱鎗健氏

プロレタリアの解放は必ず政治的過程を通じて行はれる。之れは、現代ブルジョアの搾取は、その政治的『獨裁』の下に『合法』の看板を以て行はれ、從つて現代政治はブルジョア權力の擁護する各部面の内最も著しき綜合部面であり、プロレタリアの決定的勝利を來す所の『收奪者の收奪』も亦政治的協力に依て行はれなければならぬからである。階級闘爭の一局面、しかもその重要なる一局面として政治運動は、プロレタリアの階級としての自覺に連れて必然に興るべきものであり、又興らなければならぬものである。

しかしプロレタリアの政治運動をして意義あるものたらしむるには、眞の階級のものたらしむるには、プロレタリアの『階級』としての發達を必要とする。然らざれば、假令外觀上ではプロレタリアの運動の如く見ゆるとしても、實は他階級の必要の爲めに利用さるゝに止まり、その運動が成功する場合に於てもフランス革命や明治維新運動に於けるプロレタリアの努力と同じく結局は骨折損に了るに定てるからである。

そしてプロレタリアの政治運動は、その初期の内に於ては先驅者の運動となるのであるが、プロレタリアの先驅者は、階級的の——プロレタリアの負へる歴史的使命の最後の目標に對する——確乎たる『自覺』とその『組織』とを必要とするのである。

かゝる意味に於ける政治運動であるならば、最後の目標に到達する手段として意義を持つものであつて、各部門のプロレタリアの階級的團結の促進、戰闘的訓練、並に決定的闘爭に關する有利な方便の獲得、等の運動自體としての收獲も得ることが出來よう。

日本のプロレタリア運動も今や政治的に發展すべき機運に達したのではあるまいか、けれど局に當るものは餘程の努力と注意を拂ふのでなければ、意外な結果を來さないとも限るまいと思ふ。(二六)

□ 小泉信三氏

當然の事と存候。

但し政治運動には力を注ぐ、併し普通選擧は要求しない。又はこれこれの法案の通過又は不通過の爲めに運動はする、併しそれは reformism の是認を意味するものではないと云ふやうな辨解めきたる說をチョイ〳〵耳に致し候へども、これは無用の遠慮と存じ候。

□ 布施辰治氏

私は民衆總意の新らしい政治を樹立する爲に、民衆總員の蹶起運動に專念して居るものでありますから、民衆の總意を個々若くは全體に無視壓迫する一切のものを客體として之を倒壞すべき眞の政治運動を是とし且つ能と信じます。

## 御依頼

政治運動に關する諸々の考察を遂げる事は、現在の日本のプロレタリア運動に取つて、最も重要な仕事の一つであると思ひます。私等は是に出來るだけの努力を試みたい。その爲めには、讀者諸氏の御助力も仰がなければならぬ。諸君の政治運動に關する一切の、見解、感想、主張等を至急に聞かしてくれませんか。號を逐ふて此の誌上に發表すると共に、私等の諸々の研究の基礎としたいと思ひます。

□ 森英吉氏

經濟革命を成さんと欲するならば、經濟革命を目的とする政治運動に依らなければ成らぬ事は勿論で御座います。然し力のない者が、何程政治運動を致しましても功果はありません。近年まで政治運動をせなかつた事は無產階級に力が足りなかつたからです。最近日本の無產階級運動が政治運動化して來た事は、無產階級にして有產者紳士閥の聯合軍と戰ふ力が出來たからです、今後無產階級の力が強く成れば成る程政治運動は猛烈に成りませう。而して××は終に無產階級の手に歸し、一時は××××政治が行はれませう、是れ世界の潮流にして止めんとして止むる能はざる絕對性では御座いますまいか……。

□ 高津正道氏

僕は、日本に於ける無產階級の運動が漸次に政治運動的の部分を多く加へ來つた最近の傾向を喜んでゐる者の一人であります。

世間には、無產階級の政治運動化は、運動の墮落であるやうに考へる人があるが、僕はさうではありません。又リープクネヒトの如く、ブルジョア議會の或部に喰ひ込んで、內部から議會××の運動を試みる議會利用即ち議會××政策は、今日の日本の普選運動に加はるものとは限りません。

僕は、議會運動以外の多くの政治運動を肯定すると共に、議會運動を肯定し、議會運動のみは考へません。日本の無產階級は、今日は既に階級闘爭の戰線を擴大して、直接に國家權力に向つて戰闘を開始し得る實力を持つて居ります。吾々の運動の目標たる無產階級の階級的勝利は、この政治運動化があつて初めて、より早く、より確實に達せられることを確信します。

然しながら、無產階級の政治運動に於いて、吾々が最も警戒すべきは、この運動を、改良主義を基調とする議會政策に墮落せしめぬやうにする事であります。鈴木文治君の如きは、明白に議會政策の見地から、無產階級の政治運動化を主張して居られます(今年一月の國民新聞發表の君の論文を指す)が、吾々の立場は、これとは絕對に相違します。

僕の立場を明かにするため、左に圖解を試みます。

- 政治運動
  - 議會運動
    - 議會政策
    - 議會利用
      - 普選運動
      - 普選運動傍觀
  - その他の運動

この圖に明かなる如く、政治運動は議會運動のみではありません。議會運動も議會政策のみでは議會政策に反對して議會利用政策を肯定します。又議會利用政策を肯定するとは言へ、今議會の普選運動には參加しません。理由は別の機會で申しあげます。

□ 井伏太郎氏

金米糖の角は、何の角も皆必要な角である樣に、プロレタリアの運動にも色々の角が必要な筈。

政治運動は大きな角の一つ。

先方に對しても相當効果あり、味方の教育訓練の爲めにも結構。

□ 勝野夏三氏

『政治運動は下らない』と云ふ消極的、否定的態度から一歩積極的に、ブルジョア政治に對して抗爭的態度に出づるのが今後の無產階級運動と思はれます。從つて無產階級の陣營それ自身の團結が成立した時、一歩一歩ブルジョアの牙城を破壞して行くことは可能と考へられます。尤も政治運動と云つても、議會政治と云ふが如きものでなく、ブルジョアに對するプロレタリアの政策であることは勿論です。

□ 山川菊榮氏

御說のような意味での政治運動は、プロレタリアの階級意識が強くなり、階級戰の形勢が切迫して來るにつれて、益々發達するに極つて居ると考へます。それは當然そうなるべきことでもあり、また意識的にその方向に於ける運動を進めて行くことも、全體の形勢を促進するに有効なことだと思はれます。

□ 小川未明氏

プロレタリアの眞に自覺した人が、小部分で、無自覺者が大部分を占める間は政治的になることも止むを得まいと思はれます。暴力を意味する政治は、極力否定しなければならないのは論を俟たないことです。

プロレタリアの精神を以て、プロレタリアのために盡す政治は、在來の政治とは其の趣きを異にするでせう。プロレタリアの政治は、在來の政治の延長でも、改良でもなく、プロレタリアの精神から産れたものです。

□ 稻村隆一氏

無產階級が政治的に一括して、ブルジョアジーに對する時、初めて運動は××化する。殊に日本の如き特殊國は先づ第一に政治的行動を要す。政治的行動を無視して行動する一切の革命運動は、要するに觀念的革命運動である。而し日本に於ける社會主義××の政治的形態は、社會主義のみならず一切の××形態クーデターであると思ひます。

□ 鹿子木員信氏

純粹な Homo oeconomicus としてのプロレタリアの運動は、純粹に經濟的であるべきだと思ひます。それが少しでも、經濟的範圍を出で、政治的、革命的になる時、その時、その運動は、最早、單に經濟的に規定された階級的な者の運動で無く、或る新らしい理想新しい思想に依つて統一された全體的なものだと信じます。

プロレタリアの運動は、それが革命的となる時、その時も早プロレタリア的で無くなつて全體的となるのです。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

□ 平林初之輔氏

プロレタリアの成熟と共に（ブルジョアに對抗し得る實力が組織されると共に）階級闘爭が政治的闘爭に進んでゆくのは當然でありまして、日本のプロレタリアもその例外ではあり得ないと思ひます。一の社會秩序を把持してゐるのが政治である以上、他の社會秩序を目標とするプロレタリアの運動は政治闘爭に決勝を求める以外に道はないと思ひます。但し政治闘爭の背後に強力な經濟的戰闘力を要することは言ふまでもありません。こうして後者があつてはじめて前者が可能になり必然になると思ひます。

□ 伊井敬氏

近頃日本のプロレタリアが政治運動に注目して來たことは、プロレタリア運動發達の必然過程だと信じます。從つてそれは良い惡いの問題でなく、プロレタリアが考へればならぬことは、誰れが、何のために、どう解決するかであります。そこで前の二條件は分り切つてゐます。プロレタリアが××のために――までは問はずと知れてゐる。只第三の條件「どう」だけが問題です。この「どう」が即ち今後の政治運動だと思ひます。

□ 福田徳三氏

政治運動の是非
非とすべき理由を見出すことが出來ません。

政治運動の能否
無論「能」と存じます。

□ 藤井眞澄氏

人類の共同生活から「政治」といふものを全然無くするといふ事は、今のところ一寸考へられない。社會主義でも腰の据つた上は、之を利用して差支へない、又大いにしなくてはならぬと思ふ。「政治」はつまり武器のやうなものだ、ブルはその武器でプロをいぢめてゐる。プロは之を×××て、仇討をすればいゝわけである。其れを十分こつちに取つて了ふまでに、いろ〳〵な事があるのだが、そこが甚だむづかしいところだ。腰の据らないプロが取りに行くと、却つて危い。どうかしつかりした人だけが之に當つて貰ひたい。

□ 島中雄三氏

無産階級の政治運動については、趣旨については無論結構なことであると考へますが、その可能性については多少の疑いを持つてゐます。その大體は「解放」三月號へ載せて呉れるやうに書いて送つておきましたが、その要旨を言へば――

階級闘爭が、經濟上の戰線から政治上に移つたことは、確に運動の方法上の一進歩ではあるが、經濟運動としての直接行動は、勞働者に實力があり武器があるからこそ行はれる。しかし政治上に於ては、無産階級には之を闘ふべき實力なく武器がない事、從つて積極的に對抗するとしても其効果は勢ひ微弱ならざるを得ざる事、たゞ僅に之を可能ならしむるものは無産階級の組織的勢力即ち政治的パアテイーである事、而もそのパアティーの組織が現狀に於て可能なりや否や疑問なる事――等。

□ 森崎源吉氏

日本に於けるプロレタリアの運動――その目標は政權の××でありますから、政權の××が政治運動に依つてなされる以上、共處には最早是非善惡の議論の餘地はなく、また、プロレタリア××が可能である以上、政治運動も當然可能であると信じます。組合運動は勞働者を共産主義的に教育し階級闘爭を旺盛にするのが眞の目的ですから、日本のプロレタリア運動がこれまで進展した以上、今後は政治運動が大部分を占めなくてはならぬと信じます。

□ 西雅雄氏

一、プロレタリアの政治的團體、即ちプロレタリアの政黨のない所に、プロレタリアの政治運動はあり得ない。最近日本に於けるプロレタリアの政治的行動の經驗は、實際政黨の必要を痛感させつゝあると思ふ。

二、日本に遠からず生れるべきプロレタリアの政黨は、必然あらゆる無産階級分子を糾合した廣汎な團體となるだらう。そしてこの團體が革命的立場を守り得るか否かは、之に加はる革命的分子の活動如何にある。

**編輯者から**

答解を大體、肯定、否定、肯否不明の三つに分類した。所が否定も不明も甚だ尠く、而もそれは、殆んど全部、政治運動の訝を、在來の議會運動――普選屋の仕事――と解しての所見のやうに思はれる。差し上げたハガキの文簡單に過ぎた爲めか、質問旨意に基いての否定説を聞き得なかつたは殘念である。我徒不敏なりとは言へ、身を共産主義者の片端に措く者、マサカ今日此頃『普選』乃至『理想選擧』の是非能否も持ち出せまいに――。

□ 加藤勘十氏

國家の權力は嚴存の事實であります。而して社會政策なる名題の下に吾々の生活自治權を侵害蹂躙して居ります。

吾々は經濟權力のために虐使されて居ると共に、それと不可分の政治權力のために迫害されつゝあります。吾々は經濟權力の虐使に極力抗爭すると共に、それと不可分の關係にある政治權力の迫害に對しても極力爭はねばなりません。從つて當然政治運動の形式を履まなくてはならないと思ひます。彼の一部の論者の如く政治權力の發動に對して超然的に、逃避的態度を取るが如きは寧ろ卑怯であります。

資本主義經濟組織は、それ自體の勢力よりも政治權力と不可分的關係を結ぶことに依つてより勢力をもつてゐます。吾々は資本主義主體を破ると共に、その支柱である一切のものを破らなければならないのですから、其の意味に於ける政治運動は必要であると思ひます。

但し、茲に謂ふ政治運動は、廣義のそれでありまして、勞働組合の議會割込の運動では斷じてありません。私は勞働組合の議會割込には絶對に反對であります。これに反對だからとて政治運動の是認と矛盾するとは思ひません。

□ 津田光造氏

私は資本階級の獨裁に對抗する力は無産階級の獨裁であると思ひます。プロレタリアの階級闘爭の勝利は、プロレタリアのブルジョアに對する獨裁が、完全に實現し得られた時だと思ひます。さうする爲めに、今、吾々プロレタリアに取つて組合組織の運動が必要であります。ブルジョアの組織に對抗してプロレタリアの組織が必要であります。ブルジョアの團結に對して、プロレタリアの團結が必要であります。斯うした團結の力を構成する運動を政治運動と認めるならば、私は飽迄も政治運動を是認し、それの可能を信ずる者であります。

□ 涌島義博氏

プロレタリアの運動が漸次政治的になることは疑ひない。しかし、プロレタリアットが完全に自らの社會組織を構成する爲め、資本社會を××××するためには當然政治的團結にまで進まざるを得ない。恐らく、經濟的自覺はプロレタリアットを一丸にして自衛せしめ、政治的自覺は新らしき自らの一道へ進軍せしめるであらう。

併しながら、今中央で言はれてゐるらしい『方向轉換』なるものには僕はかなり疑ひをもつてゐる。第一、普選が大衆運動だと言つたところで、そこに何等新らしき政治的自覺はなく、その提唱者であり指導者である進歩的ブルジョアの精神を模倣してゐるにすぎない。だから、これに社會主義者が參加したところで、その保守的な基礎を覆すことは到底出來ない。寧ろ、社會主義者と名乘つてゐた利巧な手合がその首腦となつて變挺な現象が生ずるであらう。第二に、社會主義はそれほど大衆運動にそぐはねばならないであらうか。それが大衆のためであり、大衆によつて實現さるべきものだとしても、この愚衆の去らない世の中でそんな顧慮は必要でないではないか。大衆といふことがそれほど重大であるならば今は寧ろ痴呆の神様を君臨せしめるがいゝだらう。

ところで、プロレタリアの政治運動は是とすべきであるが、その可能は世の常の政治運動の如くであつてはならない。それがためには普選の如きものを利用してはならない。さうでなく、もつと〳〵勞働組合を郊内に擴大して、新らしき政治的訓練を行ひ、以てブルジョアの政治權力を脅威し肉迫して側面からその本壘を占領しなくてはならない。

□ 田所照明氏

政治の根底は經濟組織にある。しかし經濟組織の變革を妨害するものは政治的權力である。無産階級は先づ此の政治的××をとらねばならぬ。××を取るといふことが××である。權力を嫌つて『革命』を叫ぶアナキストの所謂『革命』なるものは、『變る』といふ意味で、産業革命の『革命』と同じである。故に政治運動は大賛成。しかも可能と考へる。しかし議會は政治運動の全部でなく、ほんの一部である。失業、惡法反對、對露非干涉等政治運動である。で私は普選運動反對、議會運動參加反對です。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

### □ 大川周明氏

日本に於けるプロレタリアの運動は、必然日本の國家生活に於ける、經濟的部門の合理的組織を實現すると云ふが、當面の問題であらねばならぬと信じます。故に其の運動は、當然政治的となります。

### □ 高橋貞樹氏

國家組織の死滅は一切の階級關係の消滅を意味する。この前に無產階級の獨裁期があり、これは必然に無產者の××に依る現在國家權力の××を前提とする。從つて無產階級の運動は必ず國家權力を直接客體とする政治運動となる。日本の無產階級運動は、その意味の政治運動に方向轉換すべき形勢に當面して居る、如何にサンヂカの氣分を以ても、これは拒否することが出來ぬ。

吾々は斷乎としての運動に一歩踏み出さねばならぬ。しかし、議會運動は政治運動の全てではない。吾々は議會を否定することは明白である。たゞ、不可避である。政治對抗は如何なる形に於てなすべきかゞ問題である。これは熟慮を要する。唯、私一人の考へとしては、日本の資本主義の特異の發達と、無產階級の現狀からして議會を棄權――ボイコットすることが必勝の戰術だと思ふ。普選促進運動の如き愚の骨頂である。

### □ 中島千八氏

日本の勞働運動が、世界の各國よりも一番最後に於て、社會主義が實現するものとするなれば、何等權力の必要しながらうが、極東の先進國であり極東の先進國でありたい「地理的から見ても、又從來の國狀から見ても」なれば、そこに無產階級の權力も必要であらう。權力を必要とする運動なれば、それは現在の資本主義專制政治に對抗すき無產階級の政治運動でなければならぬ、而して無產階級の政治運動として一般に普く丁寧に親切に、知らしめなければならぬと思ふ。斯うした運動は今後益々深刻に進むであらう。

### □ 橋浦泰雄氏

あらゆる問題の禍根であるブルヂョア政治の貪婪な施治に覺醒すれば、する程、それに對する運動も當然從來の單純な、勞働運動や思想運動等の境地にのみ止まらないで、根本的にもつと／＼激烈な運動が起る筈だと思ひます。此のブル政治を對者にする點でこれも一種の政治運動だといひ得るでせうが、それは飽く迄も根底を異にするものであつて、所謂政治運動屋者の如くその間に妥協や八百長を作したのでは、一向に埓の明かぬことで禍根はいつ迄もあさん斷たの事でせう

### □ 高畠素之氏

政治運動に依りてのみ。目的は達せられる。但し國家權力の階級的移動を意識的に助長せしめんとする運動は、其態樣の如何を問はず、總て政治運動と目すべきなり。

### □ 田川大吉郎氏

多くなるだらうと思ふのみか多くならなければならないと思つてゐます。私は嘗てそれが少くなくなるだらうと思つたことが無く此のやうな論議口吻の現はるるなし頗る意外と思ふてゐました。

### □ 今吉一雄氏

勞働運動は單なる經濟上の問題而已に進退するを許されない今日最早勞働者解放運動の中に政治運動の範圍を廣げ行くと云ふ事に對し、反對者はなからうと信じます而乍ら眞の無產階級解放運動は完全なる勞働組合の巧妙なる運動に依らねばならぬと思ふ私は從來の所謂政治運動の中から生れた解放運動の結果に對して信賴が持てないものであつて、眞實解放の可能性ある運動は、勞働組合運動の中から芽生へた、直接行動的政治運動であると信じます。

### □ 滿川龜太郎氏

日本の改造運動は當然政治的に始められなければなりません。賃金値上とか勞働時間短縮とか一部に局限した經濟運動が、世間の不景氣と共に火の消えたやうになつて仕舞つたのは、事實之を有力に物語つて居ります。然し乍ら政治運動と云つても今日の腐敗墮落せる既成政黨の殊勝氣に唱ふる普選運動などゝ思はれては困ります。そんなものを相手とせずに別個の政治運動が起つて來なければならぬと考へます。

### □ 小牧近江氏

要は政治運動の解釋である。在來の意味での政治運動なら、言ふまでもなくプロレタリア運動にとつて、それに信賴をおくことは有害である。だが、斯うした見地からしての政治運動、戰術としての政治運動はます／＼必要、ます／＼考究を要すると思ふ。

### □ 渡邊太郎氏

日本の無產階級がブルの政治を否定しやうとしまいが、無產階級自身の政治組織を發見しない限り吾等はアイの政治に支配されてゐるのです。從つて、プロ自身の政治的行動は解放運動の重要要素であります。

### □ 靑柳善一郎氏

吾々の運動は一言にして云へば、社會××の遂行にある。社會××とは言ふ迄もなく、政治××即ち政治的權力の××と、經濟××即ち資本主義組織より、社會主義的經濟組織への改造である。乍併、政治××は之を一擧に遂行する可能性があるも、經濟革命はもうはゆかない、除々に、而かも政治××成就後相當年月を經てゞなければ完成しないのは明かである。そこで今後吾々プロレタリアの運動は先づ此政治××遂行を目的とする政治運動の部分が、漸次多くならざるを得なかろうと思ふ。運動の內容は一々之れを擧げることは不可能であるが、そう進んで行くのが當然であり且つ、可能であると私は信ずる。

### □ 桂信三氏

プロレタリアの政治運動はその步み始める第一步に於て階級意識を一層明かに認識し、ブルヂョアの政治運動と斷然たる區別をする事が必要とする。資本主義社會制度の批判、その政府の政策に對する否定行動の一切、それがプロレタリアの政治運動である。第一二の認識及區別がしつかりして居ないならば、それは墮落であり退步である。

### □ 長谷川光太郎氏

私は初めからプロレタリアの政治運動を提起して居ました。此の綜合生温い旗印であつても、政治的民衆運動を續けて居る中には、何等かの結果を得られませう。二月革命も初めは普選要求から爆發した事を思へば、特に其の感を深くします。

### □ 江渡秋嶺氏

政治運動を、御定義通り、「國家權力を直接客體とする一切の運動」として、國家權力を認容するものにとつては、必要、當然、實際的と存じます。然しそれを認容しないものがあるとすれば、ソーしたことは、不必要、無益なことも思はれます。要は、その人の、國家權力に對する立場にあると思ひます。

### □ 高山治郎市氏

一、僕等（勞働者）も當然政治運動をしなければならないが現實に立脚して進むことを望んで居る。

二、政治運動をする前に組合の充實を計り吾等の力を作らなければならない。

三、現在資本主義制度に於ける吾等の政治運動はブルヂョアに利用され虞れあると共に煽動され易い故、プロレタリアの政治教育宣傳が必要である。何よりも吾々の力を作らなければ駄目だ。

### □ 矢津九郎氏

一にも二にも三にも勞働者の團結です。全國の勞働組合が產業的基礎において堅實に結合する事です。階級鬪爭のための組織をつくる事です。そのためには日常個々の經濟的鬪爭とともに、敵階級の政治的組織に對する鬪爭がどうしても必要です。又それが必然です。無產階級の政治運動は階級戰線の切迫したことを示すだけのことです。そしてこの運動なしには、勞働者と農民とが相結んでブルヂョアの權力を××することもできず、新たなる社會秩序のために、一切の權力を運用する訓練もできません。

政治運動には必ず政治的組織が必要です。然しその組織は勞働大衆の團結力の上にのみ築かれねばなりません。一にも二にも三にも勞働階級の全國的結合です

### □ 金若水氏

日本に於けるプロレタリアの運動には、政治運動の部分を漸次多く加へなければならぬと考へ來つたことは、當然過ぎるほどの當然のことである。唯、この考へが、或る一部の人々に局限せられず、日本に於ける全プロレタリアの公論輿論となつて、一時も早く其れが實行の域に到達することを望まざるを得ない。

### □ 浦田武雄氏

無產階級の××に依つて新社會を建設せんとする以上、無產階級の政治運動を否定する筈はない。產業上の經濟組織と此の政治組織との間には各々別の機能と職務がある。無產階級の政治組織は必要



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

であると思ふ。全プロレタリア階級を結合するものは階級的政黨の外にない。

前號『農民と勞働者の背馳』の中、四尾君の說は全くサンヂカリズムの思想である。（産業組合の生産組織の外に政治組織を認めないならば、それは必然に組合そのものが政治的色彩を濃厚にもつたものならざるを得ない。その時の形態が四尾君の說だ）吾々は、資本主義の心理が一朝にして全勞働者から取り去られると思はない。勞働組合が政權を握つたらすぐ共産主義が行はれると思ふのは誤りである。産業組合萬能主義には地方的、職業主義的偏見、狹隘の暗黑面があることを忘れてはならぬ。

經濟鬪爭の機能としての組合と政治鬪爭の機能としての政黨が、兩々相俟つて我々の目的は達成する事が出來る。四尾君には種々の事情もあることであらうが、原則に於て此の政治組織を認めない人はコンミユニストではない。此點を明瞭にして置く必要があると思つたから敢て附言した。組合貴族主義に陷入る弊も此の點を充分識別して方向を進めないからであると思ふ。

## 政治運動を否定する見解

### □ 吉田只次氏

近頃プロレタリア階級の運動が政治的傾向を帶びて來たと云ふ人があるけれども、それは恐らく正鵠を得た觀察ではなからうと思ふ。五六年以前のプロレタリア階級ならばイザ知らずだが、社會的知識の著しく向上した近頃のプロレタリア階級は、政治的行動の頼むに足らないことを覺つたやうである。四五年前までは相當に普選運動に熱中したに拘らず、近頃火が消へたやうになつたのも、事實が其間の消息を雄辯に物語つてゐるのではなからうか。

政治的傾向を帶びた運動には由來野心家が付きものだ。野心家はイザと云ふ場合に、地位を得る爲めには、平素の主義主張を抛つことを毫も恥辱としない。佛蘭西革命達成後直に饑饉が襲來したのも、畢竟は野心家が自ら野心を懷かざらんと欲すれば、君子危きに近よらずで政治的行動に携はらないことである。此意味に於て吾人はプロレタリア階級の政治的運動を排せんとするものである。

### □ 船越基氏

今日の政治が少數權力階級の勢力目的を基礎とする限り、我々とは何等の交渉もありません。それに一部の連中が政治運動に携つてゐるのは僕から見れば、人氣取りの好きな議員から金をもらつて、かつぎ廻るか、でなれば夢（迷信）を見てゐるのとしか思はれません。僕は新らしい社會がAであつてもBであつても何等かの形に於て、代議制度を要するものであることは認めますが、それは、資本主義社會の環境の産物である今日の議會政治とは、全然質の違つたものであると信じます。で、今日のまゝの政治運動に携ることと――今日の――政治を是認すること――はあらゆる意味に於て、今日の社會組織を否定する僕には全く無意義です。

### □ 今野節夫氏

私は日本の無産階級が一日も早く政治の「政」を云はなくなる時代を待つものですから、その能否を申し上げる資格はありません。私は矢張り直接行動の方が捷徑のやうに思はれますが……。

### □ 水沼辰夫氏

僕の解する政治運動とは、政權を通じて意志を貫徹せんとする運動をいふ。勞働者が賃金奴隷からの解放を目的とするならば、政治運動は惡い、政治は要するに支配だ、解放運動は支配から脫せんとする運動だ。政治的自由と經濟的自由は勞働者の最大の要求だ。然るに經濟的自由の極致たる共産主義を主張しながら、政治的には獨裁專制を主張する輩は、吾々勞働者を踏臺にしようとする野心家か然らずば馬鹿だ。

### □ 下中彌三郎氏

Bの諸君はそこに共同戰線を作らうとして居られるやうですが、プロレタリアの本音はそこにあるのではなくて、どこまでも一本槍で進まうとして居るやうに見えます。政治運動といふのは「政治的直接行動」といつた風の美辭を列べても結局落ち行く先は議會政策でなくてはなるまいと思ひます。

## 肯定か否定か不明の見解

### □ 山崎今朝彌氏

政治運動は是とも非とも思ふ、時と人とにより贊成もし反對もする。今は勿論昔もこれからも同じだと思ふ。ソコデ時々方向も轉換し、一歩前進二歩退却も必要と思ふ。プロレタリアを一團と見て、是が非でもドッチかにキメなければならぬと云ふ理屈は寧ろ却つてツケニクイと思ふ。僕の知つてる範圍では、政治運動贊成乃至熱心の人は代議士位にはなれる可能性のある人だ。僕等の如き人間で贊成者はない樣だ。

### □ 坂口義治氏

日本に於ける「プロレタリア運動」の過去は、理論にのみその進歩を見た樣な觀があると思はれます。で、將來はこの理論の完全と同時に、實際の行動に過去より以上に積極的な運動の方法を必要と信じます。從つてそれが、一部分には勿論、政治運動も抱括されて居ることを認めなければなりません。故に要はこれを實行する時機と手段方法とによつて是非及能否の岐るゝ處と信じます。

### □ 柴田富太郎氏

政治運動にしても、資本主義と關係せない方法にこの運動は決して惡くないと思ひますが、瞞着される恐れがあるので愼重なる態度でやるべきものだと思ひます。

### □ 細迫兼光氏

プロレタリア運動に於て、政治運動の部分が漸次多くなるであらうといふ事は、その是非を論ずべき問題ではなくて、事實の進行、勢、であると思ひます。然しその道は、車止の標識こそないけれど、結局袋路であると思ひます。

### □ 千葉龜雄氏

「政治運動が多くなるのであらうか」否かは、共人達が政治の本質を若くは「今日の」政治の狀態を、どう見るかの主觀的問題に歸するのですから、その各々の考へが分らなければ、何とも申されませんが、最後の目的が、結局同じ動かぬ一點にあるのだから、共目的の爲の「手段」としては、政治に依據しやうと何に依據しやうと、互に共の立場から、資本主義社會の崩壞の爲めに、最も有効と信ずるものを採用するのが好いと思ひます　政治を否定する場合にすらも、政治に據る潰崩は有效です。

要するに何でもよし、在らゆるものにぴつたりと浸潤して、凡ての方面から包圍するのが必要と思ひます。

### □ 麻生久氏

政治運動に就ては夫れ〴〵の立場で違いませうが出來得る立場にある人はどん〳〵やるがよいと思ひます。勞働運動の方は種々の事情があるので、直ぐにそれ專門にやる事は出來ません。寧ろインテリゲンチャの社會主義運動者は自分自身で思ひ切つてやつたらいゝし又そう云ふ立場にあると思ひます。

## 政治運動其他の色々

服部濱次

勞働運動は、資本家相手のうちは、何處迄行つても、勞働狀態改善より出ない。一度び失業問題の如き、大問題となると、資本家敵手では全ダメな事がわかる。國家を客體としての、政治運動が必要になる。近時可なり急進的な勞働組合の中にも、政治運動が論議せられるのも、此邊から來たものだろう。由來政治運動と云へば、議會政策に限られて居たやうだが、外にも途はある筈だ。例へば國家に對する意志表示としての、ストライキ如きである。議會政策、普選もよかろうが、それが徹底しない事は今更言ふまでもない。ソコデ僕等が選ばなければならぬ運動方法は、政府も議會も國家も動かし得る民衆運動である。是は議會政策のやうにやさしくはない。至つて六づかしいが、是でなくては、徹底した効果が擧がらない。六づかしく考へれば何でも六づかしくなるが、やさしいと考へれば何でもやれる。

所が、それをやるには、先づ第一に勞働階級と知識階級の反感をとり去る事で。第二にボルアナの爭を一時休止する事だ。挑つて見れば共同の目的に進む、社會運動者が、相互に何駄らない爭をして居る間は、權力階級は枕を高くする計りだ。警視廳あたりでは手を打つて笑て居る。乃の日本の社會事情は、指導者排斥だの、アナだボルだなど、爭はなければならぬ程に、切迫して居るだらうか。よく急進的な勞働者は、勞働者の事は勞働者がするとの標語で知識階級排斥をやるが、夫れは未だ眼のさめない、勞働者を激勵する言葉としては千古の名言だと思ふが、値打はたゞそれだけだ。

僕等の運動は、形式は色々有るが、何と云ふても第一の問題は贊成者を澤山造る事だ。その次には第一線に立つ運動者を澤山造る事だ。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 本質的の差別はない
## ――「政治運動」と「經濟運動」――

山川均

一

政治運動といふことを「國家權力を直接客體とする一切の運動」といふ意味に解するなら、無産階級の運動は、今後益々政治的となり、又た政治的にならねばならぬ。

とは云へ之を以つて、直ちに無産階級運動のうちの政治運動の部分が漸次に多くなり、經濟運動の部分が漸次に少くなると云ふ意味に解しては、誤解に陷入り易いと思ふ。

二

勞働者が賃銀の値上げ、勞働時間の短縮を要求するとか、乃至は資本家の工場經營に對して監督權を要求する。そして其の結果が大罷工になるとか、又は先年の伊太利の鐵工の場合のように、工場の占領といふようなことになつたとしても、此の運動の目的が、純粋に賃銀の値上げ、時間の短縮、乃至は監督權の要求である限りは、之は純經濟的の運動である。

三

然るに之と同じ目的を議會に於ける立法で達しようとする場合には、なるほど運動の形から云へば政治運動であるが、其の目的は前の場合と同じく、純粋に經濟的である。此の場合の政治運動は、よしそれが勞働階級によつて爲されても、ブルジョアジーの國家組織の範圍内に止まるものであるから、ブルジョアの謂ゆる政治運動と性質を同じくするものである。之は廣い意味での政治運動とは云ふことが出來るが、特に無産階級的の政治運動とは云ふことが出來ぬ。無産階級的の政治運動とは、ブルジョアジーの國家權力に對して、無産階級の國家權力を打樹てようとするものだからである

四

之に反して罷工やサボタージのような形の上では經濟的の運動でも、一度び其目的が、賃銀の値上げとか時間の短縮といふ純經濟上の領分を踏み出して、資本制度の撤廢を目的とすることになれば、少くとも目的に於ては政治的の運動である。從つて資本主義の撤廢と社會的變革とを目的とした經濟運動は、形の上では經濟的であるが、同時に政治的の性質を持つて居る。從つて斯ような運動は、その闘爭が段々烈しくなつて或る程度を越へると、勢ひ純粋な無産階級的の政治運動に進展せざるを得ぬ。

そこで無産階級の經濟行動と政治行動とを、全然對立したものと考へるのは誤つて居る。同じ大衆行動が經濟的な場合と政治的な場合がある。之に反して罷工は純粋に經濟運動である場合もあるが、政治行動となる場合もある。して見れば無産階級的政治行動の特徴は、其の方法がストライキであるか議會であるかといふ點で定まるのではなくて、其の行動がブルジョアジーの國家權力を對象として居ることにあるのである。從つて無産階級の政治行動は、罷工やサボタージなどの如き謂ゆる經濟行動と對立したものではなくて、其の綜合であり、一段上にあるものであり、よく之を包括するものである。

### 日進學者の見た政治運動

プロレタリアがプロレタリアとしての問題の對象は、資本家にして全國家に非ず。隨つてプロレタリアが國家權力を目標として進むと云ふ事に贊同し能はず、國家權力が甚だしく資本家に有利なるが故にといふ問題は事全國民に關す。いかなる階級もその階級觀念を離れたる、全階級を包括せる全國民の一人として、公平無私の見地に立ちての國事に發言すべきのみと存候。此見地によりて、無論現在の狀勢を謳歌するものには無之候も、貴同にも贊同せざる者に候。（山川智應氏）

五

斯ような意味に於ては、プロレタリアの運動は益々政治的性質を帶びて來る。又た帶びて來なければならぬ。何故ならば資本主義の撤廢といふことが、純粋な經濟の領分を踏み出した政治上の目的だからである。

之に反してプロレタリアの政治運動といふことを、從來罷工やサボタージのやうな謂ゆる經濟運動によつて達しようとしてゐた純粋に經濟的な目的を、議會によつて達しようとすることゝ解したなら、それは吾々の云ふ無産階級的の政治運動ではなくして、革命的の運動がブルジョアの政治運動へ陷落することを意味して居る。

六

プロレタリアの政治運動は必要である。プロレタリアの運動は政治的にならねばならぬ。然しながら唯だ政治運動政治運動と囃やし立てることは、プロレタリアの運動を狹い經濟運動に局限しておく以上に危險である。何故ならば其結果は、無産階級的の政治運動とはならずに、無産階級の革命運動をブルジョア政治運動――改良主義の議會運動に引張り込む恐れがあるからである。

無産階級的の政治運動は必要である。淺薄な政治運動熱に浮かされぬ事は更に必要である。

---

## 母と二人で

僕は毎月一生懸命になつて働いても三十圓位しか賃金を貰へないんです。ですから今の社會から養ふべき事を強制せられて居る只つた一人の母親すら養ふ事が出來ないのです。それでは仕方がないので母親も■がく／＼しながら工場通をして居ります。その姿が僕は痛々しくて見て居られません。もう二三年經てば母親も働けなくなつてしまうでせう。あゝ、此の社會―（渡邊政之助）

## 七十の父さ

農民運動の稻村君の紹介で、Y君と言ふ人が訪れて來た。初めての面識に、全く十年も前からの友人のやうな心地がして、折柄の雪の夜を、翌朝の二時過ぎまで語り續けた。

Y君は、大井町のある電氣工場に、日給一圓五錢で働いて居る。前には學生時代もあつたし、或る低級な發傑書生の群に交つた事もあつた。が、ある心境の激動から、汗の苦闘の体驗を得やうと思ひたつて、今の生活に入つたそうだ。所が、Y君は今七十歳の老父さの二人暮しで、お父さんはうどんの行商で。一圓位の收入を得、それで二人が自炊生活をしてゐるとの話である。

Y君の思想は、日ましに深刻化し、今では共產主義運動に生涯を投ずるの心が堅く定まつた。

七十のお父さんは、その心をよく理解した。力一杯働けさ、時々激勵されるそうである。

七十の父さと二人の自炊、それだけでも懷しい話だのに、その老父がうどんを賣りながら、愛兒の思想生活を助けるさは――――。私はそこまで聞いた時、今年初めての涙が落ちた。

『今の僕は全く幸福です』と、Y君は眼を輝かした。（北原）



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 外國人の見た日本の問題

西雅雄

我々が何より第一に知らねばならぬ事は、現在日本が如何なる形勢にあるかと云ふことである。日本の現勢を詳細に知つた上で運動の戰術は生れるのである。次の一文はポーランドの共產主義者の日本觀で、外國人にありがちな誤りが少く、そして要領を得てゐると思はれる。

## 1 資本主義の急進

日本は過去五年間に於いて驚くべき速度を以て資本主義的發達を遂げた。それを世界戰爭は唯二つの方面から促進したに過ぎぬ。即ち第一には、日本の戰爭參加は甚しくそれ自身の軍需品の需要を增加し、第二には日本はロシアへの供給の源泉となり、そしてアメリカが戰爭に參加した後は、日本はヨーロッパ及びアメリカによつて等閑視せられた支那の市場に對して、製造品を供給する主要な源泉となつた。

日本の資本家にとつては、戰時の數年間は、法外な利潤を得て肥え太つた時代であつた。日本の勞働階級も亦ある程度まで利益を得た。筋肉勞働の需要は供給を遙かに超過した。この形勢は、現に猶ほ半封建制度の下にある農村の不滿にたるみを生せしめた。

一八六八年（明治維新）のブルジョア革命は、實際に於いて封建貴族の財產權を廢止しなかつた。そして彼等は土地の大部分を所有してゐる。大地主はその土地を小さく區劃して一般に農奴制に類似せる條件の下に賃貸する。農民がその收穫高の半分を地主に拂ふことも敢て珍しくはない。そして更に我々が農民の仕事の激しさ——例へば米作の如きは辛抱强い努力を要する——を考へて見るならば、地主に對する農民の貢納は地代以上のものであること、奴隸勞働と酷薄なる搾取とであることが分るのである。斯くて工業の發達は農村から都會への力强い移住運動（殊に婦人の間に於いて）を引きおこした。農民はその家族中のある一名又は數名が工業勞働に從事しなければ、生きて行かれないのである。

戰爭が終ると、工業界の恐慌は不可避となつた。軍隊の需要は減少し、ロシアの市場は失はれ、英米の競爭は支那の市場を壓倒するに至り、そしてドイツすらも極めて有力な競爭者となつた。之に加るに日本の物價は頗る高く、これがまた諸國の間にあつて日本をして生活難の國たらしめた。輸出の激減は自然大なる生產制限を齎らし、生產制限は失業及び生活難になつた。日本の新聞が默過しようともしない無數のストライキ及び勞働爭議は、これで說明がつくのである。

然らば勞働運動界はどうであるかと云ふに、活潑でそして面白くはあるが、それは未だほんの始まりで、且つ一般に非政治的サンヂカリズムに傾いてゐる

## 2 舊貴族の勢力

極めて數の多い日本の貴族は表面上だけはその特權を失つた然し彼等は陸海軍及び官僚界に於いて天國を有して居る。彼等は商工業に參加することも厭ひはしない。政治革命は藩閥族に何等の被害をも與へなかつたので、閥族制度と資本主義との奇妙な結合が生ずる結果となつた。閥族又は朋黨に屬す將軍や提督は、ブルジョアとくつついてゐるそのグループの人々から常に協力を保證されることが出來る。斯くて政治的及び經濟的構造の頂點から基底に至るまで、士官と政府當局とより成る數組の徒黨が、鼻持もならぬ痴態を演じてゐるのである。勞働者の多數が現代日本の政界の慣習に愛想を吐かし、そして非政治的サンヂカリズムが彼等の間に沃土を見出すことは、不思議とするに足らぬ。

新しい革命的思想の前途は未だ困難である。今日まで日本に於ける共產主義者の宣傳の功績は微々たるもので組織された共產主義者の數は極めて少い。彼等の政府に感じさせる恐怖の方が、寧ろ一層著しい位である。ボルセヰズムが恐しいが爲に、日本はロシアと接近することを欲しない。日本に取つては、如何なる警戒線と雖も、ボルセヰキのバチルスの侵入を防ぐに充分なるものはない。

それにも拘らず、共產主義の影響は最も意想外の處に感ぜられてゐる。例へば、最近日本の新聞紙が『吾が兵卒はボルセヰズムに染せられてシベリアから歸還する』と警告を發した事實などがこれである。そして日本の警察が兵卒と一般住民との接觸を妨げることに注意してゐるのを考へ、そして又外國人と思想を交換することの困難を考へて見るとそれは事實驚くべき事實ではあるが——らしく思はれる。ボルセヰズムはシベリアに於ける日本の兵卒や、捕虜になつたその士官や警官にさへも侵入するほどの非常な勢力を有し

---

# 十七の時

すみ子

『被告は未定年でもあり、又、初犯でもあるか、被告の犯した罪は、餘り大膽過ぎる。被告の爲めに——！』と云ふ有難い思召しに依て、八ヶ月の懲役を言渡されたのは恰度、八年前の私の十七の時だつた。

事の起りは、私の遠縁に當る大阪の四貫島に居る小資本家と、私との爭ひであつた。小資本家と云つても、家作を三百五十軒も持つて居た、あの邊一帶は、工場ばかりで從つて其處に住む人達は、職工と自由勞働者が殆んどであつた。

その小資本家と云ふのは『德』と云ふ人だつたが、附近の人達は德の上に鬼を付けて『鬼德』と綽名して居た、

六月の幾日だつたか、日は、つきり覺えて居ないが、何でも毎日々々の雨で、自由勞働者の困つたことは、お話にならない程で、彼處にも、此處にも喧嘩が起つた、親と子と、夫と妻との爭ひも恐らく貧乏が因をなしてのことからであつた。

それから間もない或朝のことであつた『今日、愚圖々々云ヤア、鍋でも釜でも手當り次第に取つて來い、どうせ何にも知らない奴等のことだから、滅多に表向きにするようなことはない』と云ふ、鬼德の甲高い聲が、私の耳に這入つた。或日その人達を連れて見て向いた。

その家には、茶碗と小さな桶が悲しさうに、棚の上にのつかつて居た。四疊半の隅の押入には、死んだと云ふ小供の位牌が淋しさうにこつちを向いて居た。

この人達の生活……——生活と云ふより

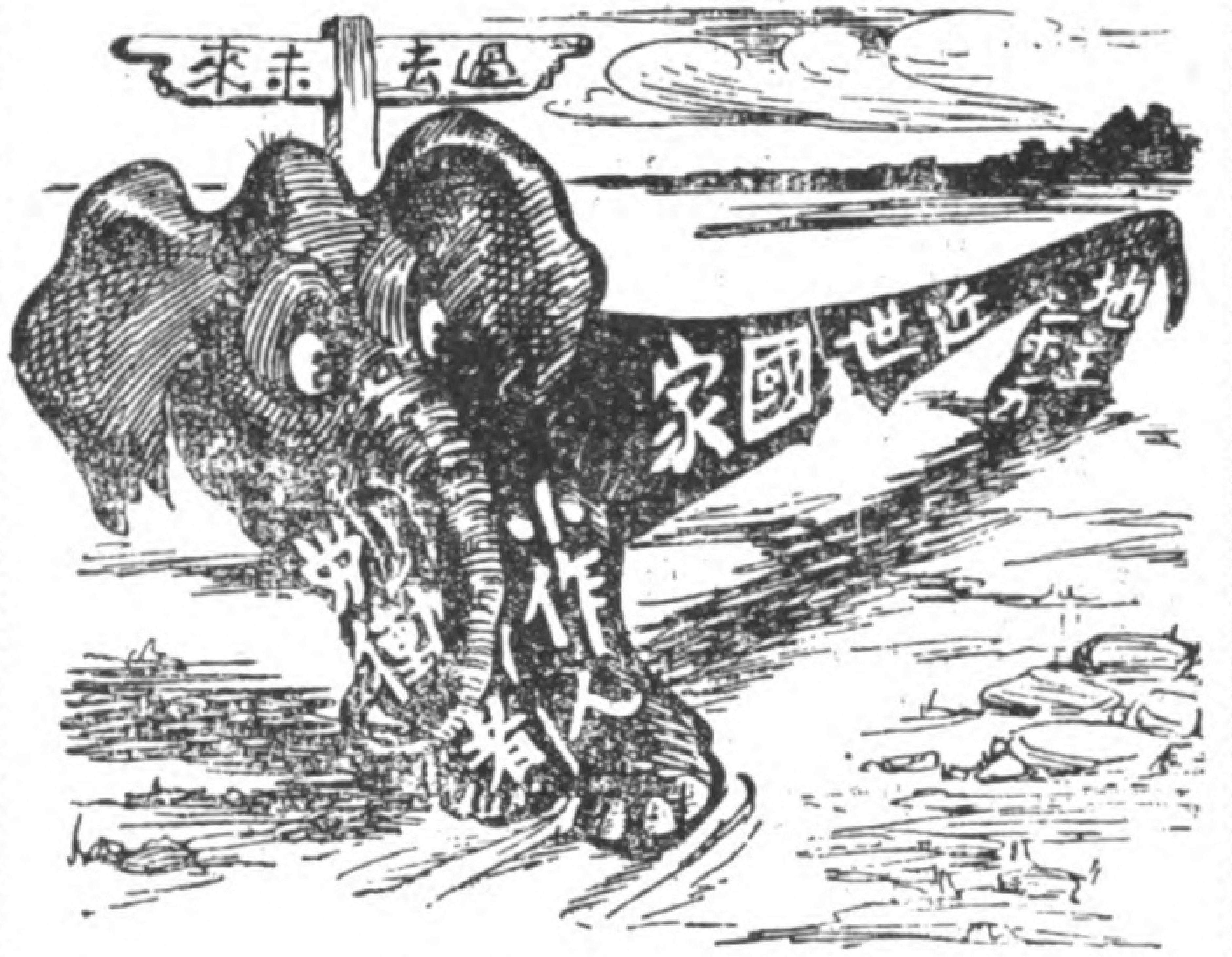


Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

てゐるのである。
　赤の危險を恐怖するのあまり、日本のブルジョアジーをして一八六八年のビスマークの社會黨鎭壓令そつくりの法案を議會に提出するに至らしめた。法案は社會主義者の宣傳のみならず、思想界に多くの主張者を有する、飼ひ馴らされた自由主義者にも適用されるので、一時は否決された。然し次の議會には多少の變化を加へられて通過する可能性がある。（此の原文は大正十一年に書かれたものである。）經濟的鬪爭が愈々深刻化して行くと共にブルジョアジーは最も極端な方策を採るに躊躇しないであらう。

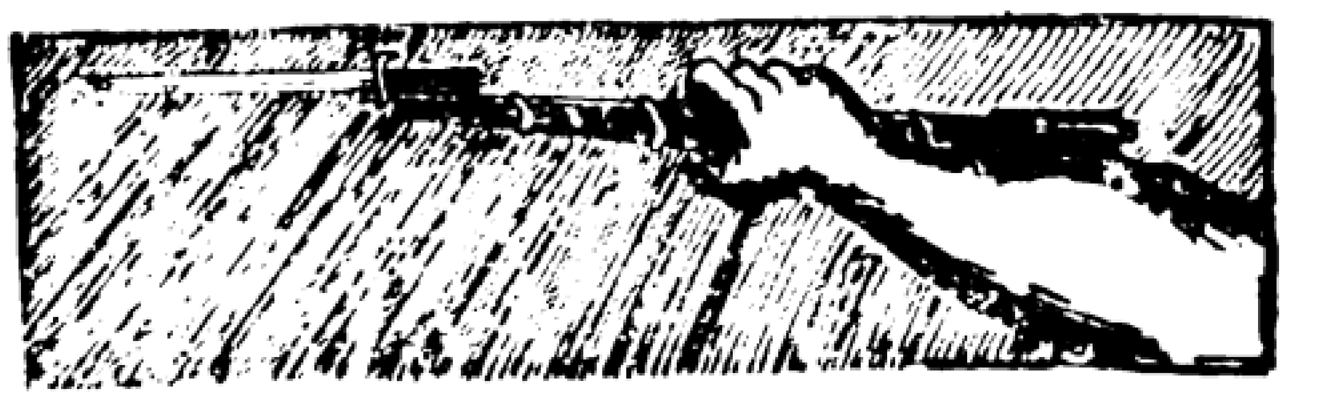
### 3 日本に於ける帝國主義

　大衆の不滿と革命的思想とを方向轉換させる爲に、日本のブルジョアジーは何よりも最善の救濟策として帝國の軍事的擴張の必要を強調する。
　彼等の議論は子供の如くに單純である。曰く、日本は不斷に增加する人口を養ひきれない貧乏國だ、故に日本は、亡國を欲せずんば、新領土と原料の源泉とを征服せねばならぬと。
　第一の言分は眞理である。實際日本は自然の惠みに乏しい國である。日本は石炭をも鐵をも有せず、從つて工業の發達に第一に必要なものを缺いてゐる。その紡績工業は主として外國原料の輸入に依賴してゐる。その農業すら、一定限度の發達を遂げ得るのみである。
　然し日本が人口過剩だといふのは當らない。群島の大部分は極めて人口が稀薄である。それらの部分、殊に北海道は、極めて僅かに自然によつて惠まれてゐるに過ぎぬと反對する者があるなら、吾々は、日本の帝國主義者が渇望してゐる國々、例へば滿州や東部シベリアの如きは之に劣るとも勝るものではないと答へたい。そればかりではない、過去の經驗は、日本の農民は貧弱な殖民者であることを示してゐる。少くとも朝鮮及び南滿州に於けるその一切の殖民計畫は全然失敗に歸してゐる。朝鮮には僅か三萬人の日本人の殖民者が定住し得たのみである。滿州では、相當利便が與へられて來つたにも拘らず、日本の商人はその支那人の競爭者を壓倒することが出來なかつた。このひけ目の理由は多々ある。即ち風土順化の無能それは（國民的慣習の保存によつて一層增大される）その鄕國で習ひ來つたやり方より外に耕作方法を知らぬこと、土地を小さく區劃する慣習等が是れである。
　日本に於ける帝國主義的思想の勢力は頗る大なるものがある。日本の社會主義者にはこの心理狀態から脫けきれない者すらある。これと戰ふ爲には、非軍國主義的宣傳は大なる困難を有するであらうが、既に二三の要求は吾々の爲に働きつゝある。以前のドイツの如く、日本の帝國主義は、今や兩端から燃えてゐる。日本は第一位の陸軍と海軍とを必要とする。過度の豫算の要求は、絕えずより大きな反對を喚び起す。軍國的政黨はこの反對論を少しも顧慮せずに、自分一個の意志に基いて之を處理しようと企てる。昨年三月それは日米戰爭の可能を論議し、そして極めて精密な計畫を準備した。曰く、太平洋で戰爭が起つた場合には太平洋方面の日本の交通は杜絕される、故に、日本は食糧と原料とをアジア大陸に仰がねばならぬ。ロシア人も支那人も、好んで日本にこれを供給しさうにもない。故に、日本は三百萬の軍隊を大陸に派遣して、上海の沿岸を占領せねばならぬ。（第二十一頁四段目に續く）




近世國家の△△

も寧ろ雨の漏らない、小さな函の中で一體何を喰べて、何を飲んで、呼吸をしてゐるのか不思議でたまらなかつた。
　と云つて、この人達は決して怠けて居るのではない、亭主は、毎日々々の雨で仕事にあぶれて居るし、お內儀さんは十歲を頭に、四人の小供を抱えてどうすることも出來ないと言ふ有樣で、これより樂な思ひをしようと思つたら、死ぬより外に途がなかつたであらう、
　此の附近の人達は、皆之に等しい生活をして居たのであつた。
　この樣子を見て歸つた私は、暫く考へた末、溢れる程、詰め込んである、鬼德の倉庫の方を見て聲を揚げて泣いた。
　愈々私の決心を實行する時機が來た、その日も、鬼德が朝から何とか神社に參詣して留守だつた。先づ、倉庫の扉をあけて米、小豆、炭、味噌等手當り次第に取り出して、裏の路次から或る勞働者の家に運んで、十七八人のお內儀さん達を集めて分配した。
　その人達は、心から歡び、私を持て囃した、私は續け樣に同じ事を繰り返した。
　が十六週目にとうとう見付かつた。
　鬼德は愈々、その鬼を丸ろ出しにして私の田舍の親にも相談もせずに告訴した。獲物はないかと常に目を光らしてゐる刑事は、橫走りに走つて來た。
　刑事の、喚鳴り聲が近所の人に聞えたのか、私の曳かれて行くときは、例のお內儀さん達は、共同水道の側に寄り合つて、ヒカラビた顏を私に向けて居た。
　私も、お內儀さん達の方に行かうとした時、小供を抱いた一人のお內儀さんが
『おすみさん！あんたは何處へ行くの！』
と云つて淚の顏を俯つむけた。
　白く眼の玉の飛び出した刑事は、『早く步け！――――』と云つて私の足を蹴飛ばした…………』



# 軍隊で暴れた話（二）

後備砲兵一等卒　福田狂二

## 支那革命黨に加はる

上海の鐵血監視團に隠れて支那の志士と交つた。支那の革命黨は、單に政治革命を企圖する許りでなかつた。彼等の中には、政治革命と社會革命とを一擧に行はんと考へて居たものもあつた。孫逸仙の當時の民生主義は、レーニンの社會思想と相似たものであつた。孫を主腦とせる興中會は徒らに悲歌慷慨する憂國の士ではない。此頃からマルクスを説きクロポトキンを解して居た。そして支那に社會主義共和國を建設して、新紀元を開き、宇内に號令せんと叫ぶ、活眼有識の士も鮮くはなかつた。私はそれに共鳴した。そして世界漫遊を止めて支那革命を完成しようと決心した。實は、日本を離れる當時は、支那から歐洲に入らうとの考も多分に抱かれて居た。支那が社會主義國となつたならば、日本にも露西亞にも傳播するだらう。それならば、支那の革命運動に參加する事は、世界の革命化に努力する事である。そう言ふやうに私は考へた。そして支那革命黨員として宣誓した。

それ以來、私は忠實なる運動の使徒となつた。或時は爆彈を運ぶ手傳もした。同志に日本語を敎へたり、柔道を敎へたりした。三月の末だつた南京康都督を暗殺せんとて、同志二人と日本の旅館に隠れ、私が爆彈を鞄の中に入れて運んだこともあつた。この仕事は首尾よく成功した。此の頃、革命黨の勢力は日々に盛んになり、大官の殺戮なども所々に行はれて居たので、租界でも警戒が嚴重になつた。それで私は、亞米利加租界の南京里の森と言ふ日本旅館に引き上げた。當時、日本の總領事永瀧久吉は清朝の内命で、革命黨の迫害に努めて居た。

## 領事館に捕はる

或る日、私の室に案内も乞はずに這入つて來た五人の紳士があつた。私は誰何した所、彼等だし拔けに私を捕へようとした。私が支那人が使ふ片言交りの日本語を使つて、『無禮者め、下れ』と怒號したら、その一人が『福田君、領事館迄來て下さい』と言ふ。私は、「俺は福田でない、劉と云ふものだ」と云ふた。すると彼は、『聞きたい事があるから領事館迄來てくれ』と云つて聞かない。こゝで、騒いでは多くの人に迷惑をかけるだろうと考へたので、『よし行かう』と言つて、一先づ連れ立つて出かけた。そして海寧路と云ふ所に來た時、突然私は彼等の一人を突飛ばして逃げた。そのまゝ四五日城内の或る所に隠れて居たが、宿に置いた荷物の中に必要なものがあつたので、友人の鞄商後藤八郎君に宿屋の様子を聞いて置いて、横君にも宿屋に行き、荷物全部を受取つて、苦力を傭ひ、それに擔がせて今やつと門を出でんとした刹那、刑事三十餘名が馬車で追ひ掛けて來て、忽ち私は包圍された。それでとう／＼領事館に伴れてゆかれた。之れは宿屋の主人が電話で密告したからであつた事が後で知れた。

三日間領事館に泊つて、日本に護送せられた。長崎に着くと東京から石田憲兵特務曹長が憲兵五名を率ゐて受取りに來てゐた。それから三日目に新橋に着いた。憲兵隊に一日置いて、取調べられた上、東京衛戍監獄に投せられた。

## 衛戍監獄の六十日

翌々日軍法會議に引き出された。理事と言ふ、軍法會議の檢事見たやうなのから、重禁錮二ケ月を宣告された。之は自分でも驚くほど安い刑であつた。何しろ脱營中にあれだけの仕事をして來てゐる。もつと／＼重い覺悟をして居た。

所が此の時の理事、――佐原某と言つた――は、私の科刑が輕きに過ぎたとの廉で左遷せられたそうだ。それを後で聞いて氣の毒で堪らなかつた。

衛戍監獄は澁谷にあつて、規則は馬鹿げて嚴重である。トテも普通の監獄の比ではない。一寸顔を撫でたり、眼玉を動かした事が見付かつても減食位の懲罰を受ける。何しろ根本の方針が威壓主義だから藥は充分利いて居る。

每日、仕事をさせ、練兵をさせ、その上水風呂に入れる。此の水風呂と言ふ奴が、並大ていの責道具ではない。

併し私は、元氣も絶頂の時代の事とて、ナーニ之しきの事が！と言ふ調子で、何が來やうが、自分で自分を勵まして居た。それだから獄則に觸る事などが寧ろ常日課で、入獄二日目にもう反則で減食をやられた。

所が私は、ハンガーストライキで逆襲し、一粒も飯を食はなかつた。之には先方が大ぶん面喰つたらしい、その後も隨分反抗したが、懲罰は一切課しなか

## 知人・友人・同志

□ 昨年の六月三日北京公川廊のエロシンコ君の宅に彼地の同志と會した時、同志は私を勵まして呉れた事を明確に記憶してゐる。日本の××は十年前後に必然來るべしと彼等は確信してゐる。而して此の大革命の日に革命の花となる者は、これまた必然に日本穢多民族であらねばならないと語つた。

何故にか。君よ、吾等は遠く二千餘年の昔より、征服者の下に言語と文字にて示し得ぬ深甚無比の迫害を受けて居る。此の祖先よりの殘虐に對し、來るべき日の××に依つてのみ實に其の魂は慰められるのである。全國に介在せる三百萬の吾等の同族はいま、一日として復讐の誓を撫ふ日を忘れて居ないのである。五百萬のユダヤ民は露國革命の花となつた、吾等は×××××の花となる日を待つて居る。（京都　近藤光氏）

□ 好きな燒芋代を節約しても購讀します。（大阪　佐渡森寒氏）

□ 俺達に刄物を向ける者がある限り、俺達はいつまでも仲間と共に牙をむいて反抗しなくてはならない、諸兄の御奮闘を祈る。（金澤　番匠谷正氏）

□ ○○などを正字で書く樣に早く力を造りませう。（京都　佐々木民之助氏）

□ 表紙の畫こそ氣に入つた。進めの字も本當に氣に入つた。昔は首を切つた鈴ケ森で、今は首を晒すかはりに思想を活字につき合し晒す、何んと云つても刑場は刑場だ。（東京　宮下繁二氏）



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

つた。僅か二ケ月の事だから、間もなく刑期が滿ちて横須賀の聯隊に歸つた。

### 歸隊後の特殊待遇

監獄に行つて歸つた者は人が相手にしない事は、軍隊のやうな×××でも一般社會と同じである。前科兵は炊事當番と決つて居た，炊事の仕事は中々エライが規律がない。一箇聯隊三千人の食物を作るから中々巾がきく、牛肉や肴は食ひ放題で、砂糖や卵の様なものでも大びらで盗む事が出來る。前科兵はこれより外に使ひ道はないと見える。私もこれに選ばれて廻されたが、炊事の班長が恐がつて一時間計りして斷つて了つたから、又練兵に出たが、馬鹿々々しくて到底やられない、整列時間に遲れたり、駈足でも長くなると銃を擔いだまゝ、用捨なく中隊に逃げて歸つたりした。海岸砲の操砲は隊から半里計り離れた演習砲臺でやる。私はそれに行つても遊んで計り居た。士官が來ても、他の油を賣つてゐる者のやうに驚かない。私が怠けるものだから、×××も追々怠けて來た。××では何日も皆なで××をせずに馬鹿話をしたり、皆で一錢二錢を集めて大福餅を買つたり、角力を取つたりして遊んだ。私は此の間に社會主義の原理などを話して聞かせてやつた。

私が××に當ると居睡り計りして居たから衛兵司令が週番大尉から叱言を言はれ、私よりも司令の方が困つた。それで六七回程で先方が懲りて、その後此の役には、もう決して、私を當てなくなつた。

こんな風だから私一人の爲め××が亂れて來て、中隊の成績に關するから今度は中隊長が困つたらしい。前科者を一切使はない事になつてゐる酒保に私をやつた。酒保は軍隊の賣店である。晝寢と讀書が自由に出來たそれも飽くと銃槍をやつたり、器械體操をやつた、銃槍と器械體は好きだつたから上手だつた。其頃銃槍では旅團で相手になる者がなかつた位だ。三人がかりで來ても、瞬く間に突倒す。殊に私の得意の業は必ず相手を突倒すのであつたから、誰も仕合をする者がなかつた。銃槍は他口、必要な時もあるだろうと思つて、特に勉強した譯であつた。

支那革命參加中の福田狂二

### 重營倉二十一回

日曜に外出すると憲兵の尾行がつく。日曜毎に私は、必ず東京に行つた。新橋から電車に飛乘りして尾行を撒くのが常であつた。友人菅原一君や片山さんや西川氏のところによく行つた。外出すれば、大抵東京で日を過ごして、何時も六日目に歸隊した。陸軍刑法では六日を過ぎると逃亡罪を構成するから、必ず六日目に歸る事には注意した。すると重營倉二十日に處せられる。私は營倉を喰つた事が、前後通算して二十一回だつたやうに思ふ。それを日數にすると、一年二ケ月餘に當つてゐる。

併し。横須賀の營倉は中々氣樂なものだつた。陸軍懲罰令に依ると重營倉は飯に鹽計り與へる事になつて居たが、私が營倉に入ると、炊事當番卒君から、特別に飯の下に肉をウント入れて與れる。時には煙草も差入れてくれた。營倉は監獄などゝ違つて、特別の味はひのあるものである。靜かに××を默想して居ると、腕が鳴つて愉快で堪らなかつた。今尙は時々營倉を憶出すと懷かしさに堪えぬ。

私は軍隊に居る間、ズット頭髮を延して分けて居た。誰れが何と言つても切らない。其頃軍隊で頭髮を分けて居たのは、第一師團長と私丈け位のものであつた。

又××を上官にする事は滅多にない。他の隊から轉任した計りの菊地少佐と言ふのがあつた。新米で私を普通の兵隊と思つて居たから、欠禮したとて私を怒鳴り付けた。私は反對に嘲弄してやると、顏色を變えて毆つて來たから、アベコベに捉へてねぢ伏せた。此の少佐、恐らく士官學校入學以來、これ程態いた事はなかつたであらう。所がその頃の私には、それ位の事は不思議でも何でもなかつた。怒鳴り付けて來た者を嘲笑する毆りかゝつて來た者をねぢ伏せる。之は人間と人間との間に於て、誰が誰に對した時にも、當然許さるべき、極めて正當なる防衛の態度であるべき筈だ。私は當然の態度を、何の不思議も考へずにやるだけであつた。

少佐と一等卒とが組み合ひの最中へ、丁度聯隊長の楢岡大佐がやつて來た。私等二人は半分々々叱られた。喧嘩兩成敗と言ふ譯だつたから、私もそのまゝ引き下つた。このやうにして、惡い上官をドシ〜遣付けたから、兵卒の信望は追々集つた。

---

□ 社會運動の經驗と思ひ出は有益なる記事と感じ申候。（大阪　吉田寅之助氏）

□ 全紙面に溢れてゐる活氣——溌溂たる意氣其のもの、様な記事——赤旗をかざしてあらゆる難關を破壞して進んで行く民衆の鯨聲の聲が聞える様だ。惰民生活のプロは偉大な力を知つて勇躍する。（京橋　K　生）

□ 定價の十錢は此雜誌としては安過ぎると思ひますが、此種類のものは安い程結構でせう。（神田　非伏太郎氏）

□ 二月號に水沼君が、アナアキは革命の敵だと云はれる事が癪にさわると云つて居るが、云はれるのはあたり前だ、無産階級解放のためにやる吾々の運動に、ケチばかり着ける自分達は、手をこまねいてなんにもしないではないか、其れが反革命家でなくて何んだ。（金子健太氏）

□ 監獄の中にも種々本が有ります。虚鶴の經濟學、片頗の道德學、哲學、出鱈目の社會學等其れは〜虫の宜い書籍類が山程有りますから、其れを見て無聊にも感じません。表に有る本は何時でも表で見られるから、監獄では表に居る時にはとても見る氣に成れぬ珍書類を見様と思つてゐます。（東京監獄　小池薫氏）



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 資本主義の社會なればこそ

## 質問

あなたが、見たり聞いたりせられた事件の中で、『資本主義の社會なればこそ、こんな事件も起るのだ！』と考へられた事は、勿論十ケにたる程澤山ありませうが、其中から最も深刻な、最も面白いのを一つ知らしてくれませんか。

### □ 吉川守邦氏

女が箸一本で發狂した話。それはお駒と云ふ今年四十三才の女。父は株屋成金でお駒が十五六の時迄は府下住に可成りの料理屋を出して盛に遣つて居たが、後妻のお京と云ふ酌婦上りの淫婦が客と驅け落ちして後は、自暴を起して遊蕩に身を持ち崩し株は下がる、不義理の借財は嵩さむ果ては閉店の止むなきに立ち至つた。

ソコデお駒は十七歳の秋に牛込柳町の叔母の家に女中と成つた。叔母は區内屈指の質屋で又屈指の吝嗇家であつた。言葉通り骸をなめさすやうにして酷使した。ソレでもお駒は何一つ不平も言はず四十三才の今年迄十七年間影日向なく働き續けて來た。

スルト今年の正月客來の爲に炊事が忙はしいのでツイ叔母の象牙の箸を何所にか無くして仕舞つた。

叔母と云ふのは今年六十七才で、亭主にも二人の娘にも死に別れ今では三人目の娘と婿の外に番頭四人の七人暮し、何が偖て有名の強欲婆さて、泣詫びても聞かばこそ毎日打つ蹴るの責め折檻にお駒は遂に精神に異状を呈し一月半ば頃迄は打たれた火箸の傷を押さへ板塀に寄り掛かつて眼を泣き腫らして居たが、先頃急に發狂し象牙の箸が有りませんか、叔母さんの大切の箸ですからと、戸毎に附近を探し歩るくので流石の強欲婆も、世間の口を恐れ、四五日前窃に某腦病院に入院させたが、モー回復の見込は無いらしい。

嗚呼十七年間汗血を絞られ、蹴られ、擲たれ、遂に發狂せしお駒の生涯は最も雄辯に現資本制度の殘忍を語る者では無いか、改良主義者や社會主義者が湯錢の値下げや、普通選擧を騒いでる間に、無產者の男や女がコウして毎日幾十幾百人となく、殺され行くのである——噫殘忍暴戾の資本家社會——極惡非道の此の惡社會を一日も早く打潰すのが無產階級の生き行く道である。

### □ 小川未明氏

生きた人間の背中に、藥や、化粧品や、活動や、寄席の廣告を負はせて、街中を歩かせるのは、最も深刻な事實の一つです。しかし、面白いといふ意味はありません。

### □ 細道兼光氏

先月岡山の小作爭議に事態を險惡にする爲めに、つめかけた警官の一隊が愈々引上げる時、妹尾驛前の料理屋に於て、何處かから頂戴した金一封の祝酒が、盛にメートルを上げてゐた。有難い世なればこそ。

### □ 坂口義治氏

(一)自分が儲けるためには他人を排して(それが死であらうが)一向かまひなしの薄情なこと、虚飾のために眞理は闇から闇へ葬り去られること。

(二)馬鹿息子でも、木偶坊でも、阿呆でも親の威光で世にありたけの我儘勝手と「ふしだら」の出來ること、そして、それが地位や名譽や金權の力で何の障りもなく、横暴を押通すあたり。

(三)世間では、資本主義の惡社會なればこそ、毎日々々苦勞をして人を殺し自殺し發狂をして居る。そして社會の進化の大切な機關が破壞されつゝある。

### □ 朱鐘延氏

生產手段を持たないプロレタリアットがブルジョアジーになり得ないのは、恰も、女が男になり得ない、といふことの樣に確實なものである。——と云ふのは社會の經濟的基礎が、そうせしめるからである。然し社會組織も、早かれ遲かれ、倒壞さるべき必然的運命の下に置かれてあり、又それを行ふのがプロレタリアの荷へる歷史的使命である、と思へば癪にさわることもこらへられます。

### □ 山川菊栄氏

とりたて、どれと特に指すのも困るほどありますが、最も普通なことでは、日々の新聞を賑はす犯罪の記事などを見る毎に、強くそういふ感じがします。殊に捨兒、兒殺し、堕胎などは、女の身として殊更に痛ましい感じがします。女にとつて、母親としての義務を全うさせてくれない社會ほど呪はしいものはありません。

### □ 船越基氏

僕と一つ所に働いてゐる鮮人のTは、日本官憲からのあらゆる壓迫のみならず、在鮮當時或る小學校に奉職中、不用意に日本語で挨拶したといふので、鮮人である生徒の父兄から排斥されて、はるばる内地までパンを求めにやつて來た。いくら暖い同情を寄せても、彼はその同情を感謝しつゝ、それを率直に受け入れることは出來ないのだ。僕等の居る社は滿足に月末に金を呉れない時がある。その上に隨分不愉快だ。僕等はよく日に一食の時があつた。僕はTに反逆をすゝめることも出來ない。それは餓死を意味するからだ。こんな事が長くつゞけばTはどうなるだらうか。

### □ 森英吉氏

狂人の放火以外の出來事は大部分資本主義の罪である。

今から十年程前に大凶作がありました。其時小作人小畑某外一同は、地主井上某に願つて曰く、「旦那樣御承知の通り大凶で年貢丈けも取れませんでしたから何卒年貢米を減額して下さい」と玄關に兩手をついて願つた。すると地主井上は曰く「地主會は減額せぬと決つて居る而して貴樣等澤山穫れた所でも餘計持つて來た事は一度もあるか、減額せぬぞ」と叱つた。小作人は左樣仰せられましても年貢米丈けの收穫は難しう御座いますからと兩手をついて幾回ともなく願つた。地主は何といつても聞き入れないで、到々平年通り掟米を取られた。作つた米を全部渡して足らぬ家は親類で米を借りて渡した。其時こそ小作人一同は顔に袖を當て、聲を擧げて泣きました。此事は累代忘るゝ事の出來ぬ屈辱です。我々は博士の雄辯に幾十倍する體驗を持つて居ります。

### □ 江渡狄嶺氏

此の間地方から友人が來て私の近くの三井一家の搾乳場へ行つて見ました。三十萬とか五十萬とかでこしらへたのだ相ですが、さても我々百姓風情の人間さまには、どんなにこの儘で働いても及びもつかないお家でした。其處の主任の人は色々とうごめかして効能を並べてゐましたが、私には餘りに馬鹿々々しくて、よく聞く氣にもなれませんでした。そこからされた牛乳は消毒なしに一ケ月も保つそうですが、それを飲んだつて、三井の人間が百歳の壽命が滿足に保てるのかしらんと思ひました。これは最近のつまらぬ見聞の一ツ。

### □ 津田光造氏

藝術家でも、或は藝術家と云はれて居る人でも、職業組合或は產業組合の運動をやらなければならないのかと思ふと、實際ウンザリする。一體、藝術を職業とし、或は藝術作品を商品とする事は藝術の本質上許すべからざる事だ。しかも現代の藝術家は、この許すべからざる罪を敢て犯して居るのである。資本主義の社會なればこそである。故に現代の藝術家は、藝術の職業化に反對するの故を以て、その藝術の職業化を餘儀なからしむる資本主義社會に對する反抗運動を起さなければならぬのである。

### □ 濱村國弘氏

日につく者、癪にさわる者は、米の相場や株の相場で失敗して、自殺するとか、又は不合理にも社會に何らの實收益はなさずして、常に絹布に包まれて居る彼等相場師である。そうして彼れ等は常にせわしそうにして而もしかめて居る處は、實に滑稽でもあり勞働階級を馬鹿にして居る樣でもあり、腹が立つたり、おかしかつたりだ。而かもこの相場師と云ふ奴は資本家が不生產的な者であると云ふ事を、明確に代表的に現したものである。そこで、今の社會は、相場師が居なくても、資本家が居なくても、何等の損失を被るものでない事がわかる。

### □ 島中雄三氏

資本主義の社會なればこそ起る事件は、大多數の貧乏といふ悲慘なる事實と、その事實に基いて起る悲喜劇の種々相とである。これ以上に深刻なる事實を私は知らない。一つだつて面白いことなんぞあつてたまるものか。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

□ 平林初之輔氏

一個人として來遊したロッフェ氏のために、數百の警官が動員されて夥しい勞働力が浪費されるのも、資本主義の社會なればこその現象でせう。（ロッフェ入京の翌日）

□ 伊井敬氏

資本主義の社會なればこそ、
バカが大臣
マヌケが社長
坊主サギして肉坊主。

□ 高畠素之氏

トロツキー程の『鬼才』を有し、土佐人の血を受けた熱烈無比の革命的國士北原龍雄ですら、われ資本主義の世なればこそ、旦に千駄木町を談論し、夕に大森あたりを彷徨す。あわれ、あわれ。

□ 飯石豊市氏

私は一番お氣の毒に思ふのは無產者出身の廢兵で有ると思ふ。今の物價騰貴では、恩給丈では到底喰ふ丈も六ケ敷い。先づ賣藥行商でもして生活の道を開かんものと、戰時中より今日に至る、路傍に悲痛の聲をあげ訴へて來たが、戰時成金のブルジョアの門は、最早堅く閉ざされてゐる。今は止むを得ず所謂方向轉換をして、搾取階級の眞似をでもしやうものなら、元來正直者の無產者は、忽ち法律の落し穴に飛び込み、生死の境を往來して得た勳何等も、一時の出來心の爲めに褫奪せられる。その後へ來るものは家族の離散と燒きつくやうな餓死の不安だ。嗚呼！資本主義社會。

□ 八木善之助氏

純眞プロレタリア、プロレタリア作家、文筆勞働者等と、勞働者を喰り物に、プロ作品と言へば直ぐ下手な事を思ひ出す樣な、下手くそな小說？を書いて、俺達無智な勞働者の自覺を促し、俺達を敎導する爲に生れたのだ等と得手な熱を吐いて居るけれど、奴等は現制度なるが故に、勞働者を喰り物にして暮して行けるのぢやあ無いか、ブルジョア文壇の撲滅等と、非常に人聞の良い事を言ひ乍ら、その撲滅せんとするブルジョア文壇に出たがつてうづ〳〵してゐる。現制度に於て勞働する事は罪惡だと思つて居る俺達は、勞働者で有る事を少しもエライさし、いゝ、ホコリだとも思つて居ないけれど、以前勞働した事が有るから勞働者だとか、純眞プロレタリア――プロレタリア作家だのと大きな顏をしてのさばられると癪に觸る。奴等は現制度なるが故にそんな勝手な熱を吐いて居られるのだ。俺達の自覺を促し、俺達を敎導するが聞いてあきれらあ、今に見ろ――。

□ 神永文三氏

資本主義の社會なればこそ。自ら働いて食ふ程のまじめさと勇氣を持たぬなまけ者が、主義者とか、運動家とか稱してめしが食へる。

□ 渉島義博氏

親父が世間體が惡いとか、三文にもならぬ社會主義運動なんか廢して何か商賣でもやれとか言つて意見してくれる。息子は賢さうな顏をして、社會主義の福音を說敎する。親父は癇癪もちで野蠻だから、理屈なんか面倒がつて、直ちに直接行動に訴へる。「愚には暴もてむくひん」と伜も鐵拳を固めて應戰する。けれどよほど惡い因果と見えて、又口をきく、合ふ日が來る。すると、再び社會主義なんか三文にもならぬから金儲けをしろ、と親父がはじめる。そして又親子喧嘩だ。誠に有難き御世だ。

□ 田所照明氏

資本主義の社會なればこそたかゞ一人のロッフェがくれば、天下がひつくりかへるやうに總動員で騷ぎ廻るのだ。燒きの廻つた樞密顧問と瘦蠅の大臣と動物の議員のアバレ方も、資本主義必然の社會相の一つ。

□ 橋浦泰雄氏

窮は仁斷だとは勿論思はぬが、病傷が人類の天災的不幸である事は八九分通りの事實だ。然るに此の天災がひどく見舞へば見舞ふ程、此の不幸者は尙一層人爲的な不幸、人災をも同時に背負はなくてはならぬのだ。假に働ける奴から搾るのを適法と見よう、しかも働けなくなつた奴から、より以上に搾り取らふとするのは一體どんな算盤玉からはじき出した答なのだ。

□ 荒畑寒村氏

『資本主義の社會なれば・・そ』かう云ふ言葉も起るのだと考へられる事は、質問の如く、實際『ヤヤになる程澤山』あつて、一々答へかねます。曰く、失業問題、曰く、製鐵取締に對する造船會社諸所問題、曰く、佛白兩國の獨乙ルール占領、曰く、ソヰエツト露西亞の困難。內外大小、あげて數ふべからずです。就中、「最も深刻な、最も面白い」ものと云へば、露國が過去數年間、全世界の資本主義國を向ふに廻して戰ひながら、着々として社會主義的改造を行ひ來れると、ヨーロッパの勞働階級、就中、炭坑夫が獨乙から來る石炭のために、賃銀の削減と、失業との脅威を受けてゐる事です。

□ 糸川二一郎氏

資本主義の社會なればこそ、
（一）空家の前に野宿する失業者
（二）地主の倉庫では鼠や虫が自由に米を食つてゐるのに多數の勞働者は空腹を抱いてゐる。
（三）薄着の貧乏人ばかりで賣れなくて困つてゐる洋服屋。
（四）ちんばの下駄を履いて居る靴屋職工。
（五）やせた老人が太つた大男を乘せて曳く人力車夫。

□ 藤井眞澄氏

今劇作家仲間で、國立劇場設立運動が問題になつてゐる。今日の社會が資本主義で出來上がつてゐないなら、こんな事はいゝに決つてゐる。それをヤッサモッサと騷がなくてはならぬのは、資本主義の社會なればこそである。僕等は設立贊成側であるが、眞に立派な國立劇場を建設する爲めに、この日本から資本家をなくしたいと叫ぶものだ。いゝ劇場を建てる爲めに、日本を共產國にする事は、少しも遠慮するに及ばぬ。

□ 小牧近江氏

資本主義の社會なればこそ羅馬使節とか佛敎國の反對とかいふ騷ぎがあるのだ。坊主國は羅馬使節派遣の交換條件として、やれ管長を親任官にしろの、それはどうでもいゝが、沒收領地を返せとか、また、そうせぬと來年の總選擧に祟つて見せるとか、政府干涉を不敬にいつて居るが、資本主義の社會なればこそ、資本主義のためにつくられた宗敎が、かくも圖々しくなれるのだ。

□ 岡陽之助氏

金錢問題で、同志が「仲間ワレ」した時など「資本主義の社會なれば・・そ」としみ〴〵思はれて、不快である。

□ 河合正治氏

K街より一里離れたK湖の沿岸に二百戶位な一部落がある。この村は三、四の大地主の外は皆小作人といつてもいゝ、程階級がはつきり區別されてゐるのである。處がK街を包圍してゐる農村が同盟してK街の糞尿を無償で汲取る決議がされた時意外にもこの村が不贊成だつた、肥料がロハになると小作人の鼻息が荒くなるとの憂慮から起つた地主の反對が村全體の反對として現はれたのであつた。小さい事ではあるが、資本主義社會の本質を、巧みに語つて寒村に起る每日の如き出來事の一つ。

□ 羽生三七氏

我が地の一角大鹿村に於けるブルジョアの橫暴振りを紹介する。資本家、久原は最初村の有力者を買收し、極めて安價に村の廣大なる共有林を買取り、諸機械を利用して製板事業を開始した。彼はその契約の當初に於て、村民を利用し、村一般の經濟を富裕ならしむことを公言した。然るに彼はその契約を無視し、製板業從業員を他縣から輸入し、爲に、以前山林に依つてその生活を保證されて居た村民は、殆んど收入の道を斷たれ、生存の危機に瀕して居る。一方にはブルジョアに搾取される所の大多數の勞働者があり、一方にはその勞働者の傭人に依つて、生活の保證を斷たれてゐる大多數の村民がある。資本家の橫暴をあぐれば限りがない。ブルジョアは法律に無智な村民を欺いて生活の底に沈淪せしめてゐる。

□ 片桐市藏氏

近來私の頭がどうかして居るのか知れませんが、見るもの聞くもの癪に觸るものばつかりで面白いと感じる如なものは一つも出喰しません。只自分の生活が日に日に迫つて來るには深刻痛烈骨身にこたへる。

□ 山岸實司氏

電車の中でそれは〳〵綺麗な〳〵どこかの御令孃でせうかに會ひました。私の胸は早鐘が打ちました同時にこんな叫を思ひ出しました、
我はきたなき勞働者で　姬よ　顏をそむけぞ。
畜生、資本主義の世なればこそ！



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 社會主義を抱ける男性への希望

## 共同の責任

山川菊榮

女の私に對して特に男性の社會主義者に對する希望をおたづねになる趣意は、畢竟一般に社會主義者――男女を問はず――に對して希望する條項より外の特殊のものを指摘せよといふ御注文であらうと思ひますが、婦人を別にして、男性の社會主義者のみに對する希望といふ、特別のものは一寸思ひ當りません。

然し婦人側の運動が振はぬことについての申譯といふ譯ではありませんが、一般に男子の方々が、婦人の問題にもつと注意されるようになることは、運動全體の發達の上から見て、重要なことであらうと思ひます。日本に於て婦人の運動が振はぬことは、まだ家族制度が相當に鞏固で、婦人が活動し易い境遇におかれてゐないといふ一般的な社會的條件が、直接間接に個人としての社會主義者の家庭生活をまで支配してゐるからで、或程度以上は何とも仕方ないことでありますが、それにしても一層積極的に對婦人の宣傳方法を講じ、段々に新しい信頼すべき味方を婦人の間にも殖して行くように努力することは、男女社會主義者の協同の責任であらうと思ひます。社會主義運動の他の凡ての方面には、微力ながら婦人も參加して、男女協同の實を擧げてゐるのですから、婦人問題についても、在來より以上、男女同志の協同戰線の發展を希望に堪へません。

三月五日より一週間は第三インターナショナルの國際婦人週間で、同八日が婦人デーとなつてゐます。この時を期して、各國の同志は協力一致、婦人解放運動の促進に努めます。ロシアでは共產黨員は男女ともに總動員で宣傳に從事し、婦人のデモンストレーションには赤軍まで參加します。この婦人デーの意義を解せず、これに參加することを怠る者は、丁度メーデーに無關心である無產者と同樣、階級意識の缺乏した、無自覺な反動分子と認められます。日本でも、平素は勿論、時にはさういふ機會を作つて特に婦人解放のために、大々的宣傳を行ひたいものです。日本の運動はまだ搖籃時代にあるので、全ての規模が小さく範圍も狹く、今までの所、婦人の問題にまで手を觸れる餘裕がなく、隨つて婦人問題はブルジョアの獨占に委ねてゐた觀があります。これが吾々の方に婦人を多く引きつけなかつたかなりに重大な理由ではなかつたでせうか。勿論この問題について婦人自身大に發奮せねばならぬことは當然ですが、男子の同志諸君も、共同の責任を認めて大に活躍して頂きたいものです。

## 希望の一つ

非手こし

私の希望は、おそらく同じ境遇にある姉妹達の願ひと、一致するものであらうと存じます。

理論の上では、承知し肯定してゐても、何さま長い間の習慣から來た、男女の殆んど本能性とまで思はるゝほどに馴致された、感情生活に於いては無意識の裡に自らの肯定を否定してゐることが、あまりに多くといふよりも、むしろ、普通事になつてゐることは、互ひにこの過渡期に立つものゝ惱みでせう。

同志の男性が、矢張り婦人を或る種の可愛きものゝ一つとして、いくらか其處に玩具視したり、遊戲的氣分を交へたり、又はあまりに婦人の理智的で活動的な所謂時代が生んだ女性を、理由なく感情の上で嫌つたりすることは、その矛盾の一つの現はれでせう。

かうした男子の方の言葉は、幾度か耳にいたしました。又姉妹達の間からも、男子のこの矛盾した壓迫に困惑してゐる不滿の聲も屢々聽きました。

しかし、最早やこの社會主義新社會の到來が、如何にしても避け難い必然なものであり祝福すべき人類の第一步である如くに、女性の人間としての覺醒も亦、人類進化の必須な課程である以上、男性は出來得る限り否徹底的に過去の遺傳的慣習の感情生活を振り捨てることに、努力して頂きたいと望まざるを得ません。まして、飽くまで女々しい非科學的宗教思想、又は感情の盲動を排して、眞に一切を科學の利劍によつて處理されやうとする男性の方に於いては。

女性もまた人類の半數を占めるものだとか、次の時代人を產むものだとか、何牙利革命の轉覆に於ける、無智な婦人の妨害とその盲目的狂暴力のあなどることの出來ないものであるとか、婦人を無視しての、すべての運動は時代錯誤であり、半身不隨であるなぞと、そんな判り切つたことは、今更ら私がクダ〱しく申上げる要もないと思ひますから、只簡單に私の希望の一つを述べさせて頂きました。（二、六）

## 二月十一日の京都

『二月十一日の日本』の中へ、京都に於ける運動を一切書かなかつた。茲に申譯の無い次第である。左に、椎信三君の通信の載せて責を塞ぎます

十一日　過激法案、勞働法案、小作法案の反對演說會を終つて、岡崎公會堂からの歸り路に、各勞働團體は京都聯合會本部へ向つた。その途中、一人の巡查は、突然行列の中へ躍り込んで、會旗を奪ひ取らうとした。その時、巡查は惡意か善意か、旗を奪ふ事が、合法上の手續に依ると說明したものでも無く、行列に解散を『命じた』ものでもなかつた。

此の突然の略奪者が、我々の眼には極めて意外なる、たゞもう滑稽極まりなき一暴漢と映じた事に不可思議はない。期せずして我々一同の胸に、憤激の焰が燃え上つた事も、その憤激が對抗の行爲となつて現はれた事も、全く自然の行き方であつた。そこに端なくも、所謂小競合が始つた。今まで、靜粛に步んで居た隊伍は、忽ち混亂の渦卷きとなつたのである。

その結果、我々の中の十三名は、旗と共に奪ひ去られた。而もそれが、一時の檢束ではなくて、今起訴されやうとしてゐるらしい。罪科は、公務防害から始つて暴行、損害、治安警察法違犯と云ふ、我々の聞き知る名稱の全部並べ立てられたやうな數罪俱發だとの事。

『先方から喧嘩を賣られて、その上物がこんな目に逢ふなんて、何と言ふべラボーな話だらう』これがその時の參加者、一人殘らずに合致した、心からの嘆聲である。我々は、一先づ心を靜めて、事件の成行を待つ事とせう。（二月十六日）

# 研究問答

社會主義の理論や運動に關する一切の疑問を寄越して下さい。あまり下らない事でない限り、出來るだけ熱心にお答えします。四月號から『社會主義研究』の西雅雄君に助勢して貰つて、二人で解答に當ります。又僕等で解らんやうな問題は、もつと偉い人に問ふて來て答えます。（北原龍雄）

□

問　組合員が、自分の意見と幹部の意見と全然相反した場合、どうすればいゝでせうか。

答　意見の小さな差異、部分的の差異は常にある事でせうから、それは我慢して默つて居るのが當然でせう。併し根本的に重大な相違、例へば今、信友會の會員がボルシェヴキズムを信じて居るやうな場合は、何とかしなければならない。

第一は自分が脫會する事です。併し是は消極的な態度です。その前に充分戰つて見なければならぬ。それには、先づ組合員多數の考へが、果して今の幹部に依つて表はされてゐるか何うかを、よく考へて見る。そうして若し表はされて居なかつたら、總會なり、その他の方法に依つて、完全に會員の意志を體現するやう、討論なり何なりに依つて努力すべきでせう。併し、若し組合員多數の意見が幹部に一致して居たら、自分と同じ意見を抱く者を組合の內部に澤山作り、その數を過半數以上に達せしめなければならぬ。それには、略ぼ二つの途があります。第一は、現在の會員に對して、自己の思想の宣傳を試みる事です。第二は、組合員外の、同一產業部員の中から、自分等と同じ思想の抱持者を誘ふて組合に加入せしめるのです。（現在の信友會などに、就て言へば、此の第二の方法が最も有効でせう。何しろ東京市の印刷工全數の百分の一位しか會員にして居ない組合ですから。）この何れかの道筋に據つて、組合內に過半數の同じ思想、同じ意見を作れば、幹部は當然取り變はるでせう。

尤も、右の他にも、時に依つて執るべき態度がありますが、これはすべての場合に適用する事の出來るものでせう。

□

問　田舍の小さな都會附近に二三人の社會主義者が住んで居るとして、それが社會主義運動を起さうと思へば、どのやうな順序や方法で進むがいゝでせうか。

答　地方々々の事情や、その主動者の希望なり立場なりに依つて色々違つては來ますが、大體左の如く考へます。最初始めなければならないのは、研究的の仕事です。それには、先づ自分等がやると共に、宣傳に依つて心を少しでも社會主義に傾けた人を誘ふて、一所にやるのです。その方法は、第一、各自に適當な本や雜誌を讀む事、新聞に現はれる每日の出來事などに就て出來るだけ深く考へる事、次に幾人か〻集つて座談會と言ふやうなものを開くのです。此の小さな集會は、新しい人を交へて宣傳を試みるにも役立ち、お互同志の熱心を高める効果もあつて、大變大切なものです。初めは、何か一つ問題を定めて、それを討論し合ふなども面白いでせう。

次に宣傳的の仕事ですが、先づ皆んな何時も心掛けて居て個人宣傳をやる事です。講演會を開くとか、印刷物を配るとか言ふ事もやらなければならないでせう。前に言つたやうに、研究の爲めの座談會に誘ふなどもいゝ方法です。

宣傳の仕事に就て大切な事は、いゝ機會を捉える事です。例へば工場で職工が慘死したが、工場主の態度は冷淡を極めると言ふ出來事があつたとする。このやうな場合は、その工場に對する宣傳の好機會です。是からの地方は何所も小作爭議が次第に多くなるでせうが、それ等は見逃してはならぬ機會の一つであります。

それから、他の思想團體や運動團體と、往き來や手紙などで連絡を取る事です。それは、智識や感情を進める上にも必要な事だし、例へば今度の過激法案反對運動と言つたやうな場合に、行動の上の連絡を取る爲めにも大切です。

大體、此のやうな種類の仕事から着手して行けば、他の事は段々考へ付いて來るであらうし、こゝへ書く事の出來ないやうな面白い仕事も見付かるでせう。

初めに書くのを忘れましたが、何かの仕事を初める集合が成り立てば、すぐに名を作る事です。名前は色々の意味で大切なものです。

□

問　剩餘價値論と社會革命との間には一體どんな關係があるんですか。

答　資本家は、獨りで段々大きくなると言ふ資本集積論、小資本家が大資本家に壓迫されて滅び、資本は少數の大資本家の手に集つて行くと言ふ資本集中論、一定資本の中で、生產機關の爲めに費さるゝ部分が多く、勞働賃銀の部分が少くなる。所が利潤の根本である所の剩餘價値は、勞働賃銀の部分の資本に比例するものであるから、右の傾向は結局一定資本が生む利潤を段々少くして行くと言ふ利潤率遞減論、それから、生產機關が吸收する部分の資本が多くなる程、賃銀の總額が減るので、プロレタリア階級全體の手に落ちる貨幣が尠くなり、隨つて生產は進むに拘はらず、商品を消費する力は反對に減じて來ると言ふ生產超過論などは、何れもマルクス經濟說の重要な骨格であつて、資本主義社會は何れ必然に崩解しなければならぬ運命を脊負ふてゐると言ふ、科學的斷定はこゝから來るのでありますが、是等の經濟學說は、すべて剩餘價値論が源泉となつて居ます。それで、マルクスの社會革命說は、剩餘價値論との間に、絕對に離れる事の出來ない關係があるのです。

唯物史觀說は、すべての社會組織は、その社會の生產力と調子が合つて居る間は持續し、生產力が發達し過ぎて、調子が合はなくなると自然に崩壞する事を斷定してゐるのですが、現在の資本主義的社會組織も、此の法則通り一步々々崩壞に向つて步み寄つて居ると言ふ事も、如上の論據に依つて論證せられるのであります。

尤も、此の問題は、こんな簡單な說明では勿論甚だ不充分です。



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 運動の經驗と思ひ出

## 6 或る冤罪の追憶

高津正道

歐洲各國で、『日出る國の皇子』として、盛大なる歡迎裡に半歳餘の御旅程を終へさせられ大正十年の九月初旬、御恙なく我が皇太子殿下が東京に御歸り遊ばされた。

その時、市民の奉迎、學生の奉迎、曰く何、曰く何と、御迎へ奉る民草の賑ひを豫想する當局が、その賑ひに乘じて、何か社會主義の宣傳を試みる不心得者がゐないものでもないと、用意周到にも、黑表に載つてゐる在京の『不穩』分子を、片つ端から檢束したことがあつた。

僕等の曉民會も、決してその中からお見落しなく、僕等が、『今夜はまだ大丈夫』と言つてまだ他に散つてゐなかつた八月の末の或る朝未明に、早くも曉民會の事務所が包圍された。當時の事務所は、合宿でもあつたので、浦田、小野、杉、平田、川崎、園部、高瀬等の外に、僕等夫婦も寢泊りしてゐた。

一同は殘念にも、文字通りに一網打盡に檢束され、三臺の大型自動車に乘せられて、淀橋警察署に連れて行かれた。この時の檢束は、同年のメーデーの前々日の同じ手での檢束と共に、僕等の念頭を去らない無念の追憶である。

他の諸君が間もなく釋放されたにも拘らず、川崎と高瀬（今モスカウにゐる）と僕との三人は、何故か殘され、僕は浮浪罪といふ罪名で十五日の拘留を言ひ渡された。

僕は、實家が寺で戶籍面は今日なほ僧侶となつてゐる。又當時實際には飜譯で飯を食つてゐたのだが、當局はそんなことには頓着しない。家の中にゐるものを浮浪罪にして了つた。日本の法律は、現在でさへかくの如く甚だ便利に使用される驚くべき彈力性を持つてゐるのだが、『現在の法律が不備だから』と稱して製造された過激法案が通過したら、果してどんなことになるのであらう。彼等の暴虐は實にその極限を知らない。

『君には重大事件の嫌疑がかゝつてゐる』のださうか、『大不敬事件』がどうしたとか、『曉民會の何所とかにあつたピストル』がどうとか訊かれたが、毛頭覺へのない僕は全く面喰はざるを得なかつた。

その前、僕は獨逸のスパルタカス團宣言の飜譯を百部ばかり謄寫版で刷つて會員間に、研究資料として配つた事があつた。その時、頁を揃へてあとに飛び飛びに殘つた剩餘の紙を、僕の妻の多代子が、その友人で下宿屋をやつてゐるN女に反古紙として手渡した。彼女は、曉民會の例會にも時々出席するので會としては客員扱ひにし、會の秘密な幹部會をその下宿で開いたこともあつた。それが發覺して、N女の家が家宅搜索を受けた時に、前の紙を押收された。

ところが、その頃、頗る××に渡る文章を澤山書いた『お目出度いこと』といふ、謄寫版刷の二十二枚綴りの不穩文書を、勞働團體や社會運動團體や各新聞社に密送した犯人の搜索中であつて、その筆蹟が、僕等のスパルタカス團宣言の筆蹟と恐しいほど似てゐたのであつた。

然し、僕はその嫌疑だとは知らなかつたので、取調べの際、スパルタカス團宣言の筆蹟を訊かれるまゝに、それは僕の妻が書いたのだと答へて了つた。實際、この宣言は、朝憲紊亂になるほどのものでもなく、高々罰金もので、S警部の嫌な顏を每日見るよりも、言つた方がましだと思つたのであつた。

川崎と高瀬とは、拘留の蒸し返しもされずに釋放されたが、こんどは幼兒曉子を伴れた多代子が引張られた。僕の先きの答辯が、彼女と幼兒とに累を及ぼしたのであつた。僕は、妻と共に、『お目出度いこと』の不敬事件の嫌疑者にされてゐたのである。

拘留の期限が濟むと、三人は東京監獄の未決監に移され、覺へのない冤罪のために亂暴な取調べを受けた。自分でやつたことなら、三年ブチ込まうと七年ブチ込まうと我慢が出來るが、全くの冤罪だと癪に觸はらざるを得ない。然かも、僕と多代子とは、豫てからの覺悟の上だから、まさか敢へて狂人にもならないが、無心な幼兒を數ヶ月監獄の獨房に住まはせたことは、今思ひ出してもゾッとする。

斷乎と否定するにも拘らず、『お目出たいこと』を僕等に引つかぶせやうとする。遂に、その筆蹟とスパルタカス團宣言の

### 百〇一房にて（二）

高野松太郎

×

脫ぎすてし緒の袷よ
着て五ヶ月
肌の匂ひもなつかしきかな

×

出たらすぐ保養に來よ
といひて來し
友住む里の濱邊眼に見ゆ

×

自分より年下の看守に
『お前が……』と言はれて
ちよつと悲觀して見る

×

穴にこめし
ハッパの爆ぜぬいらだゝしさ
そのいらだゝしさを今日も覺えつ

×

『この頃はおとなしくなつた』
とほめられて
苦笑ひせろその心はも

×

看守長に喰つてかゝりし彼
考へれば
何でもなきがさびしまれぬる

×

『社會主義になれば
收入がどの位あるか』
と訊ける
四十路の看守

×

今日ひよつと
出るまでに喰ふ飯の度數
かぞへて見たりわけもなけれど

×

凍傷を撫でつゝ夏を思ふ間に
早や七月も
半ばになりぬ

×



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

筆蹟とが、果して同一であるか否かを鑑定するために、六人の筆蹟鑑定人が呼ばれた。僕等の運命は、今は六人の筆蹟鑑定人の掌中にあつた。彼等のうちの二人は、筆蹟が違ふことを主張したが、殘りの四人は同一である旨を豫審判事に答申した。

豫審廷に於けるその後の僕の苦心は、實に非常なるものであつたが、今はそのことは必要でない。とにかく、結局證據不充分で豫審免訴といふところまで漕ぎ付けはしたものゝ、こんな馬鹿を見たことはなかつた。

僕はそのまゝ、曉民共產黨といふ秘密結社を組織した一人だといふ新しい嫌疑者にされ、翌年四月まで未決監に置かれた。然し、スパルタカス團宣言の苦い經驗に鑑み、この事件では敵に些の材料をも與へないやうにすることが出來た。

今でも思ふことであるが、この不用意な剩餘の紙と、不用意な一言とのために、自分のみか妻子をまで不敬罪の嫌疑に泣かせるやうな事件を惹起したのである。僕は、それ以來警察や裁判所の取調べに對しては、多く口を利かぬことにしてゐる。彼等は、たとひさほどの惡人ではなくとも、不知不識職業心理から、どうかして罪に陷れやうとするものであることを記憶する必要がある。恐くは、諸君の中にも、僕と同じやうな實驗をせられた人があらう。

因みに、不敬事件で僕を散々虐めたS警部は、現に方面監察官附として、警視廳で日々活動してゐると聞く。

それから、『お目出たい事』に犯人は、某教授だとか、大本教の幹部だとか、種々の噂さは傳はるが、未だに發覺しないので、當局の頭痛の種となつてゐるといふ。よほど注意深い者の仕事だと見へる。

## 7 ビラ撒き人足

高尾平兵衛

大正十年四月勇敢なる足尾の坑夫諸君は三度び殘虐なる古河に戰ひを宣した。麻生君等は勿論其の有力なる指導者であつた、坑夫諸君は其の前々年のストライキに際して多數の犧牲者を出したのに鑑みて、其の時は實に秩序整然たるストライキであつて、實によく訓練が行き屆いて居つた、もつともそれは麻生君の言葉ではあるが、そして正々堂々たるものであつた。僕は當時其の正々堂々たる合法的運動が勞働階級の革命的精神を非するものとして麻生君に心酔からず、麻生君に指導せらるゝ坑夫諸君及び麻生君を鞭撻すべく、同志竹内君及原澤君と共に罷業の最中一包の宣傳ビラを背にして東京を立出でた、

途中の列車で五六人の憲兵が乘込んで來た形勢不穩なる足尾へさして行くのは云ふ迄もない僕等は充分の用意と注意を以つて先づ無事に足尾に乘込み、しかも演說會場に潛り込むことが出來た、加藤君麻生君の演說が罷業勞働者及其の家族達を熱叫せしめた時、僕は携へたビラを機敏にしかも巧みに會場に撒き散らした、會場は爲めにどよめきたつた、僕は尚二回三回を續けざまに撒いた、演說が濟んで皆んなは示威行列に移つた、僕等もそれに參加し行列の後になり先きになりして、革命歌を高唱し乍ら皆んなに元氣を付けた、やがて古河鑛業所の事務所前に來た時、警官の一隊は突如として行列の進行をさへぎつたゝめにそこに小競り合ひが始まつた、僕は後の方でそれを眺めて警官隊の橫暴不都合を憤激して直ちに持てるビラを其の小ゼリ合ひの中に投げつけて警官隊を突破しようとしたが、たちまちに二人の刑事につかまつた、僕はそれを振り放つて二度び混亂の中に投じた、が其の時はもう小ゼリ合ひは靜まつて示威行列を續けて居た、振り返つて見ると同志の一人は居ない最早先刻つかまつて行つたとのことだ。これではとても僕等も危いと思つた、然しこれで此の儘逃げ出すのは甚だ卑怯千萬ではある何かやる機會もがなと、坑夫高野松太郎君と相談せんが爲め同君の長屋を訪れる間もなく、刑事連の包圍攻撃を受け遂ひに其の儘、約四ヶ月の別莊生活を營んだわけだ。

僕の運動と云ふのは、殘念乍ら斯うしたビラ撒きより外に何ぞといふものをやつて居ない。僕は僕の運動が單なるビラ撒き人足の仕事に過ぎなかつたことを心に悔ゆる、己れ自身が實際に勞働の痛苦を共にし生活を共にし自ら組合を造り自ら組合員を誘導して陣頭に立ち一切の責任を身に負ふの決心なくしては到底本當の運動はあり得ないと思ふ、過去を顧りみる時、只自己の無智不明な經驗の醜骸を見るのみ。

（第十三頁より續く）日本の軍國主義者は、かやうな侵略戰を國民的防戰と主張して來たが、今は自由主義者からの反對論も高まりつゝある。

眞に危險の迫つた場合には、勞働者と農民との對抗運動となるか、絶え間なき軍事的冒險の結果、日本の民衆を現今のドイツ民衆の狀態に陷れるかの何れかであらふ。（セー、マーチレフスキー）

氣のくさるに
立ちて跳ひきり床なければ
大き聲して
監房のゆれにき

×

聲を出して笑ひても見き
講明房の壁の落書の
いろ〳〵のこと

×

七月のわが思ひ
多く食物のことにかゝれり
おかしく悲し

×

皮肉られてかへ言なく
氣つかざるふりする
われのいかにいさしき

×

硝子窓に顔うつし
何か呟きし
喜怒哀樂のまねなして見つ

×

硝子窓にうつる
われを見れば悲しかり
いかにいさしき顔しておるものぞ

×

『社會主義はもう懲りたろ』と
母の來て
泣いてくどきし
今朝の夢かな

×

俺がもし大杉ならば
自叙傳なかざるべかりし
豐多摩の八月

×

『有名なる足尾の高野氏』も
今日よりは
千七號となりにけるかも

（和田軌一郎君に）

# 鈴ケ森だより

## 社會主義者と職業

僕が初號のこゝへ『社會主義雜誌と廣告』と言ふのを載せて置いたら、横濱の吉田君が、次の如く相槌を打つて來た。(福田)

社會主義者とは文士や勞働者のみが占有すべきものであつて他の介在を容すべきものでないと云ふ樣なことは、思はざるの甚しきことで、其職が巡査であらうと大臣であらうと、文士であらうと勞働者であらうと、よしや乞食であらうと泥棒であらうと、職業の甲乙を論ずるの必要はない。吾々が今日巡査をするのも泥棒をするのも、自分から好んでするのではなくて、社會制度が吾々を驅つてさうせしむるのである。社會制度が改革されない以上、吾々は社會主義者の立場から見て、天下廣しと雖も俯仰天地に耻ぢないと云ひ得る丈けの職業を見出すことの出來ないのを悲しむのである。否寧ろ吾々は此悲哀を感じて社會主義となつたのである。何ぞ職業の甲乙を論ずるの必要あらん。

## 田舍の友人に

S君。俺が如何なる動機で社會主義者になつたかを君に知らしても無駄ではなからうと思ふ。俺が、羽前の米澤の近在で、相當の地主の家に生れた事を、君は知つてゐるだらう。俺の兄貴といふのは無智で頑固でそれで馬鹿者位な事も少しは知つて居るだらう。

俺達も隨分窮められた者だ。金の爲めには親も兄弟もなかつた。況して小作人をやである。

俺の兄に對する反感は、反動的に小作人に對する同情と變つた。それで俺は此の世の中と云ふものを考へて見た。地主は遊んで樂をして威張つて居る。小作人は働いても〳〵一生貧乏で惱んで、それで地主の前では兄貴見たいな無智な馬鹿者共にペコペコ小さくなつて居る。こんな譯のわからぬ世の中を俺は呪はずには居られないのだ。

是だ。俺が社會主義にならなければならなかつたのは是れなのだ――。手紙の一節。(伊藤)

## ヨタリング

■先頃、日本に來たヨツフエ氏の堂々たる風采にはチヨつと驚いた、寫眞で見たレニンやトロツキーの風采から押して、俺の想像してゐたヨツフエ氏と、ホントのヨツフエ氏とは、餘りに懸け離れて居たのは全く意外だつた、と云つて俺はそれを、どうと云ふのではない。

■竹井が、創刊號の鈴ケ森便りに『鐵砲の巧いのは何んと云つても、福田で次は北原だ』と書いた、俺はそれに敢て異議を挿むものではないが、時代は常に進展して止まぬ、爾來時移り日更り三十日を過ぎた今日、鐵砲は最早、俺に及ぶものがなくなつた、毎朝缺かさず十發づゝヤルが、十發十中疑ひなしだ、尤も斷つて置くが、距離は十間位ゐの所で、目標は五寸四方は確かにあるブリキ罐だ。

■併しホントを云ふと、鐵砲は皆んなが巧くなつたんだ、偖て今度は何をやらうと云ふことになると、福田は『大砲が好い』と云ふ、北原は『銃槍若しくは撃劍に限る』と云ふ、竹井は『竹槍』伊藤は『拳闘』を稽古しよう、と云ふし、俺は『相撲』を主張する。

■何んと云つても『進め』は猛者揃ひだ、加之に平岩が二十日に津の監獄から出て來る、赤化防止團とか云ふ連中も、チトやつて來ると面白いがナ――何時でも御相手申し上げるんだが――。

■伊藤はあれで人並の情熱を持つた可愛い男だ、ツイ先頃のことだ、此の男、神樂坂署で檢束され、擲られるやら蹴られるやら、散々な目に會つたさうだ。

■先生餘程、癪に障つたと見え、放還されるや其の足で、警視總監を擲るつもりで警視廳に押しかけた處、何とか課長の何とか云ふ奴から『私に免じて堪忍して吳れ』と謝まられると、そこは正直正銘のお人好しとて、どうやら氣が少し變になり『然らば今回だけは特に免してやる』て大きな處を見せて歸つたさうだ。

■社へは入り更り立ち更り、色々なお客がやつて來る。此の間訪れて來た四十計りの男、何處かで見たような男だと思つたら、ツイ先頃、豊多摩監獄を出た計りの強盜クンだ、その強盜クンは話上手な男で、監獄や犯罪當時の模樣などを述べ立てゝ居たが『私はア、しなければ餓て死んだでせう』と詰て淋しく笑つた(高野)

### 發行人から

■發行人として先づ言ひたいは、雜誌の賣行の意外な程に旺んな事であります。二月の半月中に、東京附近のある停車場では六十部賣れ、關西のある本屋からは、百五十部の上に又百部の追加注文が來たやうな仕末です■自分の雜誌が賣れるなんて、ウロ覺えの會話が西洋人に通じた時のやうな嬉しさを覺えるものです■私等の運動は、今の所先づ雜誌が中心です。雜誌の賣行きは運動範圍の擴大を意味する。賣行過良を悦ぶ豈に唯に營業上の見地からのみならんや■何れにしても益々努力しようと思ひます。(福田)

### 編輯人から

■雜誌のよく賣れるのと講演會に聞き手の多く來るのとは、同じやうな性質の事で、同じやうな種類に嬉しいものです。何れにしても結構な事です■編輯人の恐縮に堪えぬ事は、本號にいたゞいた原稿で已むを得ず次號へ廻したものが、又幾つか出來た事です■編輯〆切間際の紙面のヤリクリには、晦日間際の金のヤリクリのやうな思ひです。何分御諒恕を願ふ■次號には一寸毛色の變つたものが一つあります。メーデー號にも、もう着手しました■冬はまことに編輯の好季節、障子を締切つて火鉢片手の編輯なんて此年になると心地のいゝものです■尤も惡法案對抗運動の騷然時に障子を漏れて耳を打たぬでもない。(北原)

## 本屋廻り

市内の或書店へ、配本に行くと『鈴ケ森ですか恐しい處に居ますね』と氣味惡がつて困るが、物のわかつた本屋になると『そちらの方からよく出ますね、あなた方は主義の爲に、やつてゐるので、ブルヂヨアの息子等が遊び半分の、虚榮心からヒマツブシにやつて居るのとは、違つてる、さあ、さあ、賣つてあげますよ』と來るから嬉しい。

■『こふして居れば、可なり相當にやつて居る、中產階級のように見へますが、これで皆な借金や半分はやりくりでやつて居るのですよ、中には自分でやつてゐるのもありますがね』と、意外な處で、書店廻り、打明話やら革命來を歡迎するやら、愉快な仕事だ。(竹井)

## 工場の笛

獄中『本』の差入を受ける度に、いつも乍の同志の熱情に、眼鏡を曇らせぬ事はなかつたがタツタ一人『童話國の女王』と仇名した同志より度々童話、童謠の差入を受けて、重く沈んだ心を輕く浮かせて貰へた。生れて始ての柄に無い事だが御禮の意味で發表する事にした。(平岩)

□

チヨレ〳〵工場ノ笛ガ鳴ル
　御辨當箱チガチヤ〳〵サセテ
坊ノチユキノ御土産オバ
　ドツチヤリ持ツタ父樣ガ
チヨーレオ土産ト歸ツテクル

□

雨ノオテテノ其ノ日ホド
　工場ノ笛ガ鳴ラナクテ
他所ノオヂチヤン大勢ガ
　坊ノ御宅ニ集ツテ
朝カラ晩迄話シシタ

□

一番チユヨイ父樣ガ
　オチユモトオテテオチユリムイテ
戸板ノ上デ青イ顔
　皆ニ抱カレテ歸ヘツテキタガ
イツモノ御土産チ呉レナンダ

□

御月チヤマノ御歌チバ
　大キナ聲デ歌ツタラ
父チヤンキーキガ悪イカラ
　オトナデ居ルノト母チヤンニ
怖イ御目々デニラマレタ

□

飴屋ノ大鼓ガ鳴ツタカラ
　母チヤン御錢々ト歸エツタラ
オマワリチヤンガ二人デ
　キーキデ寢テ居ル父樣チ
無理ニ起シテチユレテツタ

□

工場ノ笛ハ又鳴ルガ
　坊ノ父樣歸ラナイ
泣ズニオトナデ居ルケンド
　御土産ノ御菓子ハ頂ケナイ
父樣トツタ御巡リチヤン
　父樣返エシテタダチヤイナ

# 人間性と資本主義

吉田只次

一

人はパンのみにて生きるものにあらずとキリストは云つた。併し人間はパンがなくては生きて行くことが出來ないばかりでなく、人間が獸類の域を脱し得たのも、パンの生活の刺戟を受けた結果であることは、唯物史觀的考察によつても明かである。處が其パンの生活の刺戟があまり効き過ぎた結果、人類社會は遂に變態性の私有財產制度を產むに至つた。人類の圓滿なる共同生存と氷炭相容れない私有財產制度は、遂に萬物の靈長たる人類をして恰も喪家の犬の如くパンの爭奪を餘儀なくせしむるの已むを得ざる狀態に立ち至らしめた。パンの爭奪を根本義としてゐる私有財產制度の下に於て、毫も生活の保證のない私有財產制度の下に於て、強盜竊盜詐欺橫領等其他の經濟問題を近因若くは遠因とする凡ゆる犯罪や、他人の勞力を搾取して榮華に耽ける略奪階級の演出と云ふやうな種々な罪惡が陸續として起るのも、必然の結果であつて毫も怪しむべきことではない。

二

人類が五十萬年も以前の獸類と大差がなかつた時代はいざ知らず、現代にまで永い間の進化を重ねて來た人類には、拔くべからざる良心が根強く植へ付けられてゐる。其證據には路傍に倒れた行路病者に遭遇したものゝ百人が百人中一人として憐愍の情を起さないものゝないことを見ても明かである。けれども進んで行路病者を助けやうとすれば、何時でも誰でも經濟問題に行く手を遮られて、氣の毒とは思ひながら唯傍觀するの已むを得ない事情に立ち至るのである。けれどもかゝる場合に遭遇して百人が百人中比々皆然りとばかりは云へないと云ふ論者もあらう。夫れ或は然らん、然れども萬が一にもそんな人がありとすれば、恐らく其人は行路病者以上の若くはそれを顧みる餘裕を持ち得ないほどの愛苦を懷く人か、若くは不斷の經濟的壓迫によつて、良心神經の麻痺した可憐な人であらうと見るのが至當な見解であつて、其人は全然生れながらにして毫も良心を持合はして居なかつた人だとは誰でも自己の主觀を通して人間の相對性を考察した場合云ひ得ない言葉であらう。

自然の大饗宴は開かれたりされど無産民の座席はなし」(ゾムバルト)

三

露西亞の文豪ゴルキーは世人から惡魔の權化か何ぞの樣に云ひなされてゐる、乞食や泥棒仲間などの心理狀態を、恰かも芥溜の中に、ダイヤモンドが、底光りをして、ゐるやうな麗はしい、寧ろ、莊嚴な人情美を描がいて、世人の誤解を訂だしてゐる。良心は、獨り人間ばかりの、獨占物ではなくて、獸類や、泥棒の仲間ですら、社會的生活を營む、種屬の中には、各々それ相當の良心が備はつてゐる。就中殊に強大なる社會的生活を營む、蟻や蜂などの仲間に於ては、時と場合によつては、人間よりもより以上に、強烈なる良心の閃めきを見ることがある。獸類や蟲類ですら、既に如斯とすれば、萬物の靈長たる人類に向つて、今更事新らしく良心の有無を詮議立てするが如きは愚の骨頂である。

要するに、人間性は資本主義に依つて、本來の實質を著しくネヂ曲げられてゐる。

## 最近の一出來事

糸川二一郎

好景氣で勞働者の不足な時は資本家はいづれも勞資協調とか溫情主義とか勝手な自分達に都合の良いことを言つて勞働者をだまして、さんざ、こき使つて不當な金を儲けて置きながら、少しでも不景氣になると今度は其金を吐き出さない爲めには、勞働者なんぞは死なうが生きやうがまるで野良犬でも追ひ出す樣に解雇してしまふのだ。橫濱野毛通り印刷工場廣文堂も其通りで、一月二十五日職工村田七郎同長田元之助の二名が病氣で二日間休んだ爲め、不成績だと言ふ理由で解雇してしまつた。其れも解雇通知書に解雇手當たつた二日分を副へ、仕事着まで一とまとめにして小使に持たして二名の病床へ屆けてしまつたのだ。廣文堂には同志印刷工組合の濱松君がゐるので、このことを聞くや早速職工一同に相談したが、其の煮えきらぬ態度に憤慨し、單獨解雇された二名の病床に訪問して事情を聞いた上、解雇通知書を突き返して抗議を申しこんだ。其條件は(一)解雇した二名に解雇手當として日給一ヶ月分を支給する事(二)今後は全職工に對して定休日以外會社が休業した場合は給料全部を支拂ふ事、所が工場主は一切取合はず、其後は姿を隱して面會もしないので、やむを得ず組合員の多數いる港榮社へ通知した。港榮社には赤旗會の鬪士行木君や軍隊を中途で追ひ出された荒入君や、一騎當千の者ばかりだから、早速仕事を中止して一同集まり、事件は少さくも我々勞働者を踏みつけたもので、こんな惡例は今後全勞働者の死活問題だから、××をち×してしまへと言つて、各自××や×××を持つて、五十人ばかりで工場に押しよせた。一同が廣文堂に着くと、留守を使つて面會しなかつた工場主も、青くなつて事務所へとび出して早速要求に應じて了つた。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 新講談 女間諜

岡千代坊

## 二回

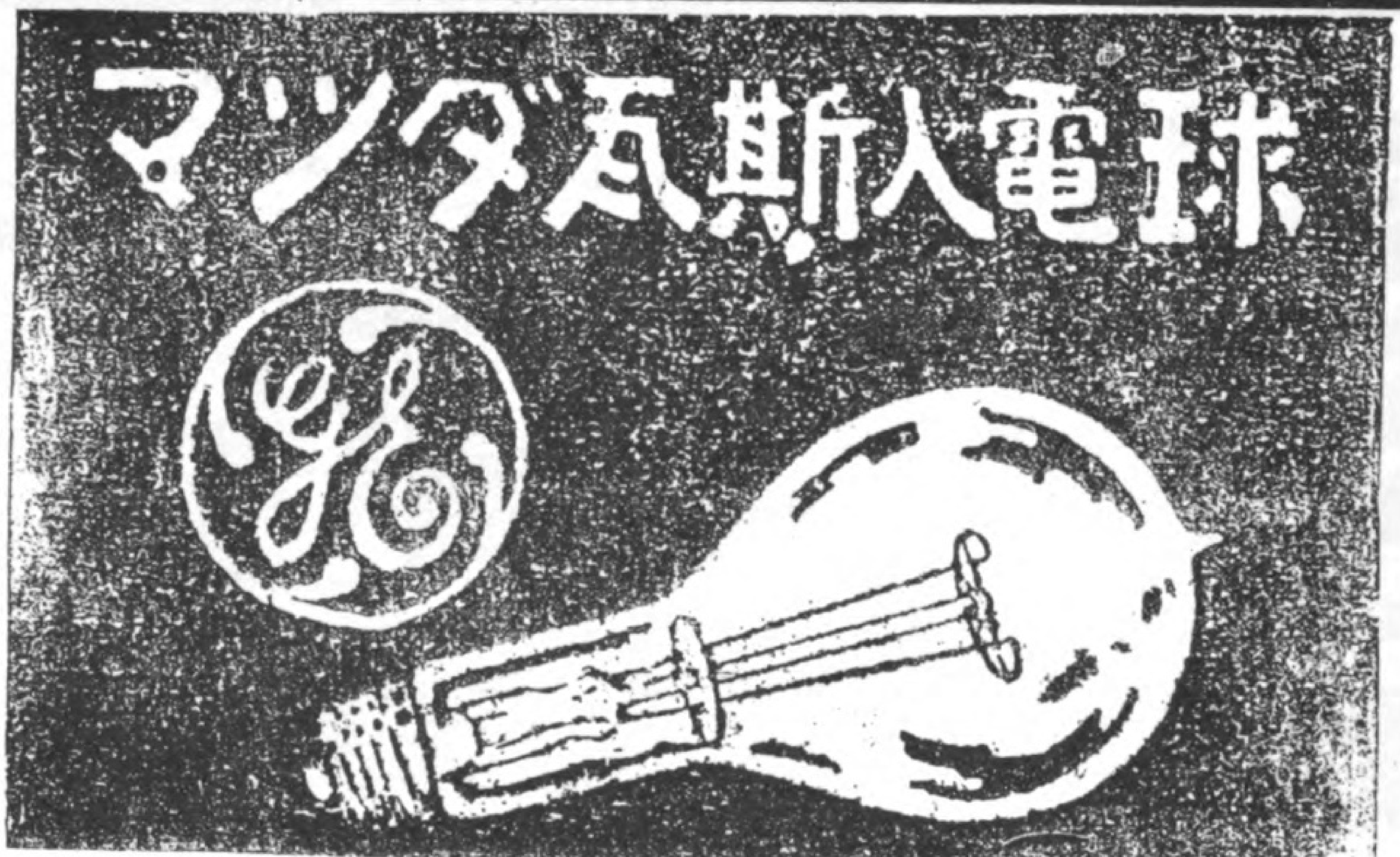
清元の師匠延登志は、煙草を輪に吹きながな 延「先刻會社の方から、吾妻は不都合があつて今日限りで斷はつた、宿料など滯らないやうにせいと、御注意があつたの、吾妻さん、お前さんには、誠にお氣の毒だがね、會社の方を斷はられては妾の方も、今日限りで引越して頂きたいわ」吾「承知しましたが、今日直と云ふ譯には行きかねるからモー二三日置いてもらへましやう」延「どうも困りますね、貴君の引受人でもあれば、そりや五日でも十日でも置てあげますが裸體一貫の風來坊ですもの、お氣の毒でもね、今日限りで引越して貰へませう」吾「僕がいくら風來坊でも二三日位の宿料は拂ひますよ」延「それかね、二三日が逢ひ四五日になり、一文なしになつてから、出てゆいて下さいと云つてもね、貴君の方もお困りでせうが、妾も一層困りますよ、少しのお金のある中に、其所の木賃宿にでも留めて貰ひなさいよ、アーそれが善ことよ」

吾妻は默つて腕を組んで考えて居ました、側に清元のお浚へをして居た、娘のお蝶、今年十五で色の白い丸ぽちや、眼のパッリとした、鼻筋の通つた三十二相が揃つたと申しませう、愛らしい娘が、稽古本と三味線を横に措いて、蝶「お母さん、吾妻さんを、今日限りでお斷りするの……」延「さうさ、會社の工務さんから、いろ／＼と、御心切な注意があつた人を一日でも置いておく譯には行かないのさあ」蝶「でも直ぐぢや吾妻さんも、お困りですわね」延「お前、餘計なことお言でないよ、吾妻さんの事と云ふと、お前はイヤに肩を持つ、本統に嫌な娘だよ」お蝶は顏を赧をさして、ちつと坐を立つてしまへました 吾「無理に置いて、もらふとは云はぬ、藝人と云ふものは薄情だと聞いて居たが、之れ程までに、涙のないものかなあ」怖ろしい眼をして延登志を睨つけて二階へ上つて行きました、延「ハ・・、聞た風な事を云つて居るよ、馬鹿野郎が……」[illegible]て風呂敷包を抱えて吾妻は出て行きました 延「オイ、お蝶、浪の花をお振りよ、本統に縁起でもないね……」娘はハイと返事をしましたが、眼には一杯涙が宿つて居りました、此娘のお蝶が、後に時の警視總監の寵愛を受けて、築地に胡蝶と云ふ待合を出して、女間蝶の主人となり、社會黨を一網打盡になさんと、活躍をなします場面は巻を改めまして相解ります

お話は分れまして、逢坂通の姉のお菊は、弟と共に二月はど以前に新潟縣越後國蒲原郡から人買の仙六と云ふ奴に、東京の紡績に三年間勤めれば、女なら嫁入仕度が十分に出來、男なれば田地の一町歩位は譯もなく買ふ事が出來る、其上に金銀の飯を喰つて、五色の糞をたれる東京の事だから、夫れは／＼贅澤なものだと、木に餅の成るやうな甘いことを云つて、僅かばかりの金を母親に渡して、連て來られて見ると、姉はからんや弟驚かざらんや、『米は南米お菜は鹿菜、たまの御馳走は鹽鰯』と云ふ、ありさま、姉は翌日から、紡場へ見習として入れ、弟は機械部の油指の見習に入られ、泣くにも泣かれず、二月ばかり勤めて居りますと、姉のお菊は、寒冒にかゝり、寄宿舍で油臭い蒲團の中に藻繰つて居りましたが、熱のせいかうつら／＼として居ると誰やらが、『オイ、逢坂々々』と呼びます眼を開て見ると、髭のある見馴れない洋服を着た、上役らしい人が枕許に立つて居りますから起上つて、容姿を直し菊「御免くださいませ……」洋服「起きられるか……お前が逢坂通の姉かへ」菊「さうでございます」役「誠に氣の毒なことをしたが、弟の通は二三日前に腸質扶斯に罹り避病院へ入れて置た處が、昨日俄に容體が變つて死だ……何分傳染病の事だから、直に火葬に附して了つた、是非お前に會してやりたいと思ふたが、聞けばお前も病氣で寢て居ると云ふ事若しも傳染でもしたなら、夫れこそ大變だと思ふて、兎に角火葬にしてしまふた、會社では丁寧なる回向をしてやると云ふて居るので、一寸知せがてらに和談したい事もあつて來たのだ、私は工務係の熊田と云ふものぢやが」菊「ナ、何んです、弟が、通が死だつて、そりや本統ですか」役「本統だ、誠に氣の毒な事をしたが、傳染病に罹つたから仕樣がない」お菊はまアと云つた限り、失神、氣絶せんばかりの驚ろき、桑田はこゝぞと猿臂を伸して、例の懐柔策を用んとしました、之れ迄に桑田の爲めに貞操を汚された處女は數知れません、工務の狒々と云へば此の界隈ひの通名になつて居る位です、お菊は一生懸命その手を振り放し『助けて／＼』と金切り聲で叫びながら寄宿舍を驅け出しましたが逃げられてはコハ一大事と、跡を追掛けました、天を翔つたか、地をもぐつたか更にお菊の行衞が分りません。やゝ四五時間も經過まするとて押上警察署から、電話がかゝつて參りました、警察署と會社とは職工の事では、兼ね／＼了解がありまして、虐待、凌辱など せられて、逃走したものがあつても大概、反對に説諭されて會社に引渡されます、逢坂お菊もいろ／＼と申立てましたけれども、結局弟が死亡したので逆上して居るから、取上げずに引渡して與れと云ふ事で、さうさう會社へ引戻され、病氣を靜養させると云ふ名目の下に、逃亡用心の爲めに監禁同樣の憂目を見て居りましたが、誰れ云ふとなく、逢坂通は傳染病で死ではなく、ロップに捲込れて慘死をしたのを、會社が遺族扶助料などの關係から腸質扶斯で死だと胡麻化して居ると云ふ事を、お菊が耳にしましたから、いろ／＼と探つて見ると、現狀を發見したのは、吾妻巖と云ふ人だけれども、其人はとうに解雇されて會社には居ないと云ふ話、どうかして吾妻と云ふ人に逢て眞相を確めんと、會社を拔出まして吾妻の行衞を探します、不遇の男女は果して廻り會ませうか。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



東京にて取次店御希望の方は
電話銀座一三七〇番へ

第一高等學院（大學豫科 政經、法、文、商、理工）
○入學試驗 三月廿九日ヨリ同卅一日迄
○願書受付 三月十五日ヨリ同廿六日迄
第二高等學院（大學豫科 政經、法、文、商）
○入學試驗 四月一日ヨリ同四日迄
○願書受付 三月十五日ヨリ同廿九日迄
專門部政治經濟科
同 商科
○入學試驗 四月五日ヨリ同七日迄
○願書受付 三月十五日ヨリ四月三日正午迄
同 法律科
同 高等師範部 國語漢文科
○願書受付 三月十五日ヨリ四月十五日迄
○中學卒業者及同等學力者ハ詮衡ノ上入學セシム
同 英語科
○入學試驗 四月八日同九日
○願書受付 三月十五日ヨリ四月六日迄
右各第一學年生ヲ募集ス
○詳細ハ三錢郵券相添志望學科明記ノ上各事務所ヘ照會ノ事
大正十二年三月
東京牛込 早稻田大學

金、銀
白、金
東京市神田區 松田町
德力本店

# 關西大學學生募集

大學豫科 第一學年 280名
願書受付 三月一日ヨリ四月五日マデ
試驗期日 四月九日ヨリ同十二日マデ
大阪市外千里山 關西大學

專門部 本科 豫科 第一學年 600名
願書受附 三月一日ヨリ同廿三日マデ
大阪市福島 關西大學

詳細ハ郵券參錢相添ヘ志望學科（大學豫科又ハ專門部）明記ノ上福島舊學舍ニ照會セラルベシ

婦人良薬
喜谷實母散
産前、産後、血の道、引風、冷込等に特効有
▲全國到る處に販賣す
本舗
東京京橋區中橋大鋸町
喜谷市郎右衛門

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

良品廉賣

松坂屋 いとう呉服店

東京下谷區上野廣小路

森永ミルクキャラメル
森永ミルクチヨコレート
森永ゼリビンズ
森永ミルクココア
森永ミルク（煉乳）
森永ドライミルク（紛末牛乳）

大正十二年三月一日發行 每月一回 ■定價 一部十錢（郵稅五厘）一年一圓（郵稅共）■發行所 東京府下荏原郡大井町鈴ケ森二四七八（振替東京一二八七四）日本勞働協會